
令和2年度

県政世論調査
(概要版)

香川県

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査目的.....	1
2. 調査項目.....	1
3. 調査設計.....	1
4. 回収状況.....	1
5. サンプル設計.....	1
6. 集計・分析方法.....	3
7. 報告書の見方.....	3
第2章 調査回答者の属性	5
1. 性別.....	5
2. 年齢.....	6
3. 職業.....	7
4. 圏域.....	8
5. 居住年数.....	9
第3章 調査の集計結果	11
1. 教育について.....	11
2. 障害福祉について.....	33
3. 医療機関の適正受診について.....	43
4. かがわの自転車条例について.....	54
5. ボランティア・NPO活動について.....	65
6. 県政の重要度と満足度について.....	72

<第1章 調査の概要>

第1章 調査の概要

1. 調査目的

県政の諸問題について、県民の意見や要望等を把握し、今後の施策立案に際しての基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査項目

- (1) 教育について
- (2) 障害福祉について
- (3) 医療機関の適正受診について
- (4) かがわの自転車条例について
- (5) ボランティア・NPO活動について
- (6) 県政の重要度と満足度について

3. 調査設計

- (1) 調査地域 香川県全域
- (2) 調査対象 満18歳以上の県民
- (3) 標本数 3,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法
- (6) 調査時期 令和2年5月12日～6月2日

4. 回収状況

- (1) 標本数 3,000
- (2) 有効回収数 1,751 (58.4%)

5. サンプル設計

- (1) 母集団 香川県内の市町に居住する満18歳以上の県民
- (2) 標本数 3,000
- (3) 地点数 150地点 (市部：127地点、町部：23地点)
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

【 層 化 】

県内の市町（8市9町）を次のように5圏域に分類した。

圏域名	構成市町
1 高松圏域	高松市・三木町・直島町・綾川町
2 東讃圏域	さぬき市・東かがわ市
3 小豆圏域	土庄町・小豆島町
4 中讃圏域	丸亀市・坂出市・善通寺市・宇多津町・琴平町・多度津町・まんのう町
5 西讃圏域	観音寺市・三豊市

さらに、各圏域内を市町の規模によって、

①高松市 ②高松市以外の市 ③町 に分類して、それぞれを層とした。

【 標本数の配分 】

各層における母集団数(令和2年3月1日現在の選挙人名簿登録者数)の大きさにより、3,000の標本数を比例配分した。

【 抽 出 】

- ① 第1次抽出単位となる調査地点として、令和2年3月1日現在の投票区を使用した。
- ②調査地点数については、1調査地点あたりの標本数が20前後になるように、各層に割り当てられた標本数から算出して決定した。
- ③調査地点の抽出は、調査地点数が2地点以上割り当てられた層については、

$$\left(\frac{\text{層における選挙人名簿登録者数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right)$$

を算出し、等間隔抽出法により該当番目が含まれる投票区を抽出した。

- ④抽出に際しての各層内における市町の配列順序は、総務省設定の市町村コードに従った。
- ⑤調査地点における対象者の抽出は、調査地点（投票区）内から選挙人名簿によって等間隔抽出法で抽出した。
- ⑥以上の結果、圏域別・市町規模別における標本数・調査地点数は次のとおりである。

【 圏域別・市町規模別 標本数および調査地点数 】 上段:母集団数 下段:標本数、()内は調査地点数

圏域 \ 市町別	高松市	高松市以外の市	町	計
1 高松圏域	339,074 1,295 (65)		44,686 170 (9)	383,760 1,465 (74)
2 東讃圏域		66,737 250 (13)		66,737 250 (13)
3 小豆圏域			23,850 91 (4)	23,850 91 (4)
4 中讃圏域		160,472 599 (30)	57,373 209 (10)	217,845 808 (40)
5 西讃圏域		102,081 386 (19)		102,081 386 (19)

6. 集計・分析方法

集計・分析にあたり、回答者の年齢階層の偏りを補正し、年齢別の集計ウェイトを乗じて標本数を規正（ウェイトバック集計）した。ウェイトバック集計した値は、この規正した標本数を基に回答者の割合（百分比%）等を算出している。なお、規正した標本数は、乗算結果の小数点以下第1位を四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しない場合がある。

年齢区分	推定母集団		有効回答数		年齢ウェイト (A/B)
	実数(人)	構成比(%) A	実数(人)	構成比(%) B	
18～19歳	18,708	2.4	15	0.9	2.70081
20～29歳	77,189	9.7	106	6.2	1.57691
30～39歳	96,827	12.2	209	12.2	1.00325
40～49歳	132,742	16.7	294	17.1	0.97773
50～59歳	111,640	14.1	285	16.6	0.84827
60～69歳	129,747	16.3	387	22.5	0.72601
70歳以上	227,420	28.6	424	24.7	1.16151
合計	794,273	100.0	1,720	100.0	-

※1) 推定母集団は令和元年10月時点

※2) 構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。

※3) 年齢ウェイトは小数点以下を含んだ各構成比から算出しており、小数点以下第2位を四捨五入した各構成比から算出したカッコ内の数値とは一致しない。

7. 報告書の見方

- (1) 回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出し、少数第2位を四捨五入した。
このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 複数回答の設問の場合、回答は選択肢の有効回答数に対し、それぞれの割合を示している。このために、その比率の合計が100.0%を超える場合がある。
- (3) 図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。また、設問で回答がなかった選択肢について、図中の比率表記(0.0%)を省略している。
- (4) 本文、図表、集計表に用いた符号等の意味は次のとおりである。

N：質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数

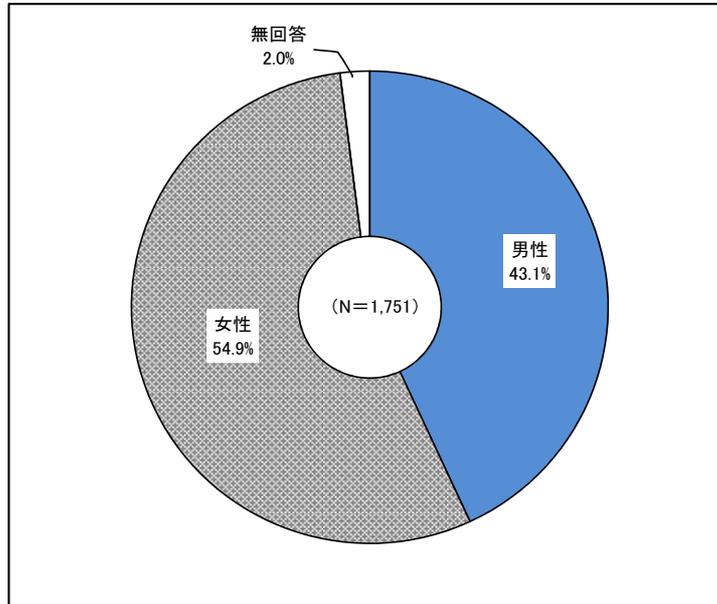
<第2章 調査回答者の属性>

第2章 調査回答者の属性

1. 性別

性別について、「男性」43.1%、「女性」54.9%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「男性」43.2%、「女性」54.8%となっている。



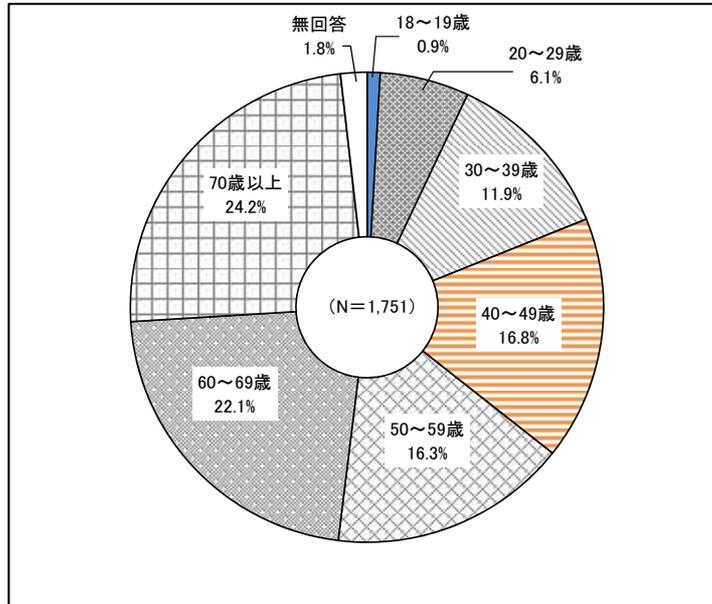
項目	回答数 (人)	構成比 (%)
男性	754 (756)	43.1 (43.2)
女性	962 (960)	54.9 (54.8)
(無回答)	35 (35)	2.0 (2.0)
計	1,751 (1,751)	100.0 (100.0)

※ () 内の数字はウェイトバックした値

2. 年齢

年齢について、「70歳以上」24.2%が最も高く、次いで「60～69歳」22.1%、「40～49歳」16.8%、「50～59歳」16.3%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「70歳以上」28.1%が最も高く、次いで「40～49歳」16.4%、「60～69歳」16.0%、「50～59歳」13.8%などとなっている。



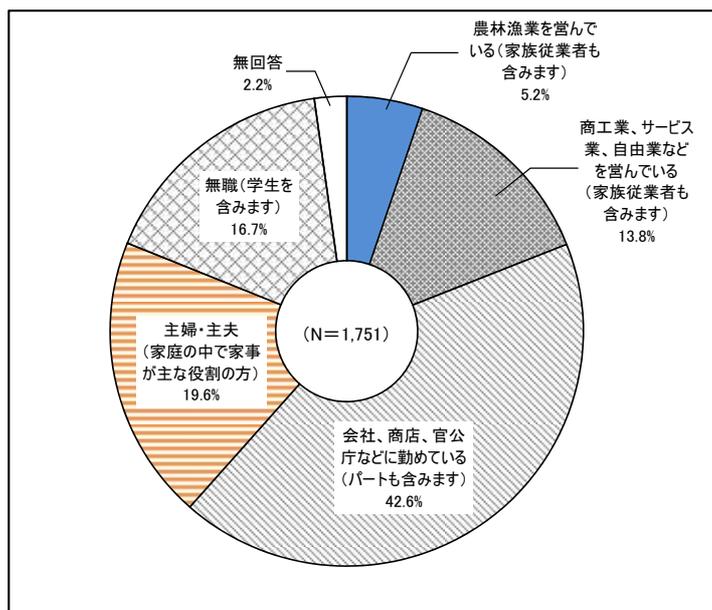
項目	回答数 (人)	構成比 (%)
18～19歳	15 (41)	0.9 (2.3)
20～29歳	106 (167)	6.1 (9.5)
30～39歳	209 (210)	11.9 (12.0)
40～49歳	294 (287)	16.8 (16.4)
50～59歳	285 (242)	16.3 (13.8)
60～69歳	387 (281)	22.1 (16.0)
70歳以上	424 (492)	24.2 (28.1)
(無回答)	31 (31)	1.8 (1.8)
計	1,751 (1,751)	100.0 (100.0)

※ () 内の数字はウェイトバックした値

3. 職業

職業について、「会社、商店、官公庁などに勤めている」42.6%が最も高く、次いで「主婦・主夫」19.6%、「無職」16.7%、「商工業、サービス業、自由業など」13.8%、「農林漁業」5.2%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「会社、商店、官公庁などに勤めている」41.2%が最も高く、次いで「主婦・主夫」19.1%、「無職」18.9%、「商工業、サービス業、自由業など」13.4%、「農林漁業」5.2%となっている。



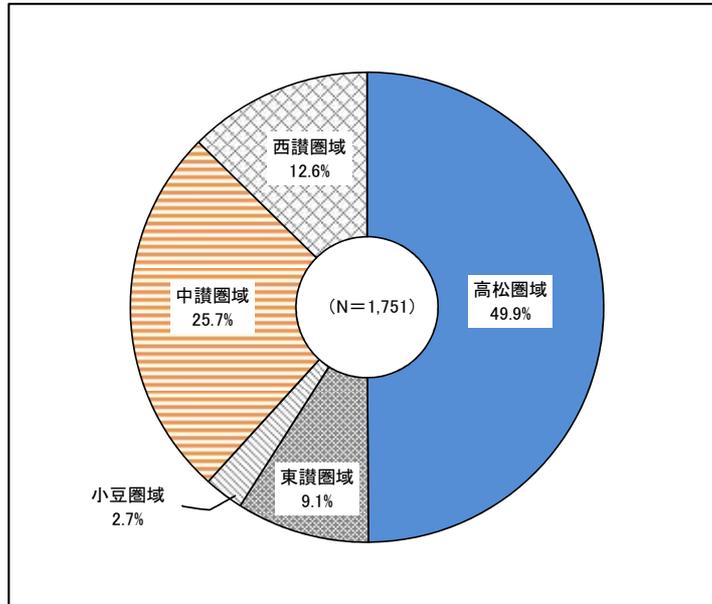
項目	回答数 (人)	構成比 (%)
農林漁業	91 (91)	5.2 (5.2)
商工業、サービス業、自由業など	241 (234)	13.8 (13.4)
会社、商店、官公庁などに勤務	746 (722)	42.6 (41.2)
主婦・主夫	343 (335)	19.6 (19.1)
無職	292 (331)	16.7 (18.9)
(無回答)	38 (38)	2.2 (2.2)
計	1,751(1,751)	100.0(100.0)

※ () 内の数字はウェイトバックした値

4. 圏域

圏域について、「高松圏域」49.9%が最も高く、次いで「中讃圏域」25.7%、「西讃圏域」12.6%、「東讃圏域」9.1%、「小豆圏域」2.7%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「高松圏域」50.4%が最も高く、次いで「中讃圏域」25.7%、「西讃圏域」12.3%、「東讃圏域」9.1%、「小豆圏域」2.6%となっている。



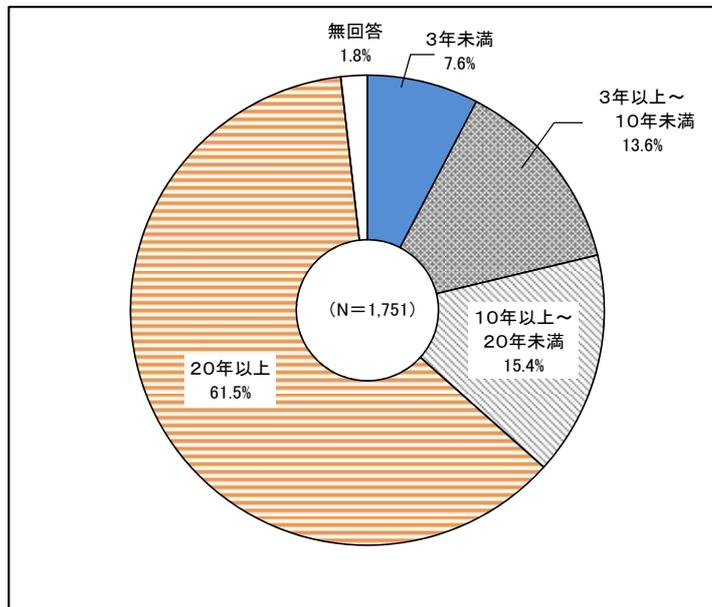
項目	回答数 (人)	構成比 (%)
高松圏域	873 (882)	49.9 (50.4)
東讃圏域	160 (159)	9.1 (9.1)
小豆圏域	47 (45)	2.7 (2.6)
中讃圏域	450 (451)	25.7 (25.7)
西讃圏域	221 (215)	12.6 (12.3)
計	1,751 (1,751)	100.0 (100.0)

※ () 内の数字はウェイトバックした値

5. 居住年数

居住年数について、「20年以上」61.5%が最も高く、次いで「10年以上～20年未満」15.4%、「3年以上～10年未満」13.6%、「3年未満」7.6%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「20年以上」59.5%が最も高く、次いで「10年以上～20年未満」16.2%、「3年以上～10年未満」13.8%、「3年未満」8.6%となっている。



項目	回答数 (人)	構成比 (%)
3年未満	133 (151)	7.6 (8.6)
3年以上～10年未満	239 (242)	13.6 (13.8)
10年以上～20年未満	270 (284)	15.4 (16.2)
20年以上	1,077 (1,041)	61.5 (59.5)
(無回答)	32 (33)	1.8 (1.9)
計	1,751 (1,751)	100.0 (100.0)

※ () 内の数字はウェイトバックした値

<第3章 調査の集計結果>

第3章 調査の集計結果

1. 教育について

(1) 教育の現状について

問1 幼児期の教育、小学校教育、中学校教育、高等学校教育、特別支援教育の現状についてどう思いますか。それぞれ1～6のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】

(単位：%)

項目	満足している	まあ満足している	どちらともいえない	やや不満である	不満である	わからない	無回答
幼児期の教育	9.1 (9.7)	29.2 (29.0)	20.2 (19.9)	5.3 (5.1)	2.9 (2.7)	24.7 (24.7)	8.7 (8.9)
小学校教育	7.8 (8.2)	30.7 (31.1)	20.0 (19.7)	7.5 (7.4)	3.3 (3.2)	22.8 (22.4)	7.8 (7.9)
中学校教育	5.8 (6.1)	25.1 (25.2)	21.8 (21.6)	8.4 (8.6)	3.4 (3.4)	27.0 (26.5)	8.5 (8.6)
高等学校教育	6.6 (7.1)	23.0 (23.0)	22.1 (21.9)	7.7 (7.7)	3.1 (3.3)	28.7 (27.9)	8.9 (9.0)
特別支援教育	4.8 (5.2)	13.5 (13.6)	19.6 (19.5)	3.9 (3.9)	2.7 (2.8)	44.7 (44.0)	10.8 (11.1)

幼児期の教育の現状について、「まあ満足している」29.2%が最も高く、次いで「わからない」24.7%、「どちらともいえない」20.2%、「満足している」9.1%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「まあ満足している」29.0%が最も高く、次いで「わからない」24.7%、「どちらともいえない」19.9%、「満足している」9.7%などとなっている。

小学校教育の現状について、「まあ満足している」30.7%が最も高く、次いで「わからない」22.8%、「どちらともいえない」20.0%、「満足している」7.8%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「まあ満足している」31.1%が最も高く、次いで「わからない」22.4%、「どちらともいえない」19.7%、「満足している」8.2%などとなっている。

中学校教育の現状について、「わからない」27.0%が最も高く、次いで「まあ満足している」25.1%、「どちらともいえない」21.8%、「やや不満である」8.4%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「わからない」26.5%が最も高く、次いで「まあ満足している」25.2%、「どちらともいえない」21.6%、「やや不満である」8.6%などとなっている。

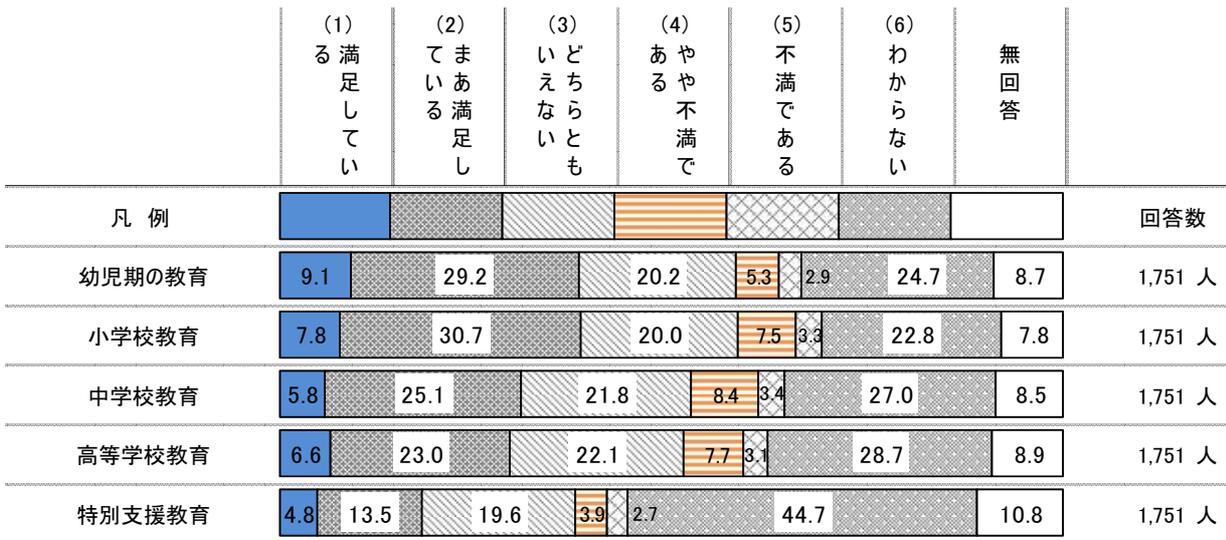
高等学校教育の現状について、「わからない」28.7%が最も高く、次いで「まあ満足している」23.0%、「どちらともいえない」22.1%、「やや不満である」7.7%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「わからない」27.9%が最も高く、次いで「まあ満足している」23.0%、「どちらともいえない」21.9%、「やや不満である」7.7%などとなっている。

特別支援教育の現状について、「わからない」44.7%が最も高く、次いで「どちらともいえない」19.6%、「まあ満足している」13.5%、「満足している」4.8%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「わからない」44.0%が最も高く、次いで「どちらともいえない」19.5%、「まあ満足している」13.6%、「満足している」5.2%などとなっている。

図表 1-(1)-1 教育の現状について



グラフ単位：(%)

(2) 幼児期の教育で力を入れてほしいことについて

問2 幼児期の教育では、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】※回答数の多い順に並び替え

1	遊びを中心として、さまざまな経験を積ませること	56.1%(56.5%)
2	道徳心や社会性を育てること	40.0%(40.3%)
3	「早寝早起き朝ごはん」、「運動・外遊び」の望ましい生活習慣を身につけること	38.5%(37.8%)
4	きちんとした「しつけ」を行うこと	35.0%(34.9%)
5	地域の自然にふれたり、地域住民と交流したりすること	30.2%(30.6%)
6	創造力を育てること	26.9%(26.9%)
7	情操・感性を育てること	24.6%(24.2%)
8	体力をつけ、たくましさを養うこと	22.6%(22.8%)
9	文字の読み方や数の数え方などに関する興味や関心を養うこと	15.9%(16.2%)
10	その他（具体的に：_____）	1.4%(1.4%)
	（無回答）	1.2%(1.2%)

幼児期の教育で力を入れてほしいことについて、「遊びを中心として、さまざまな経験を積ませること」56.1%が最も高く、次いで「道徳心や社会性を育てること」40.0%、「早寝早起き朝ごはん」、「運動・外遊び」の望ましい生活習慣を身につけること」38.5%、「きちんとした「しつけ」を行うこと」35.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「遊びを中心として、さまざまな経験を積ませること」56.5%が最も高く、次いで「道徳心や社会性を育てること」40.3%、「早寝早起き朝ごはん」、「運動・外遊び」の望ましい生活習慣を身につけること」37.8%、「きちんとした「しつけ」を行うこと」34.9%などとなっている。

図表 1-(2)-1 幼児期の教育で力を入れてほしいことについて

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,751 人
(1) 遊びを中心として、さまざまな経験を積ませること	56.1	982 人
(2) 道徳心や社会性を育てること	40.0	701 人
(3) 「早寝早起き朝ごはん」、「運動・外遊び」の望ましい生活習慣を身につけること	38.5	675 人
(4) きちんとした「しつけ」を行うこと	35.0	613 人
(5) 地域の自然にふれたり、地域住民と交流したりすること	30.2	529 人
(6) 創造力を育てること	26.9	471 人
(7) 情操・感性を育てること	24.6	431 人
(8) 体力をつけ、たくましさを養うこと	22.6	396 人
(9) 文字の読み方や数の数え方などに関する興味や関心を養うこと	15.9	278 人
(10) その他	1.4	25 人
無回答	1.2	21 人

グラフ単位：(%)

(3) 小学校教育、中学校教育、高等学校教育で力を入れてほしいことについて

問3 小学校教育、中学校教育、高等学校教育では、どのようなことに力を入れていけばよいと思いますか。
1～19の選択肢の中からそれぞれ3つ選んで番号を記入してください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】

(単位：%)

項 目	小学校（特別支援学校の小学部を含む）教育	中学校（特別支援学校の中学部を含む）教育	高等学校（特別支援学校の高等部を含む）教育
1 学力・学習意欲の向上	49.4(49.0)	49.9(49.2)	23.3(23.2)
2 豊かな心の育成	66.2(66.0)	19.3(18.4)	8.9(8.6)
3 健康な体づくりと体力の向上	52.5(52.0)	22.7(22.8)	5.1(5.1)
4 基本的な生活習慣・規律の確立	53.4(52.8)	18.4(18.3)	6.2(6.3)
5 いじめなどの問題行動や不登校への対応	31.4(31.3)	50.5(50.3)	10.7(10.5)
6 情報活用能力の育成	2.3(2.4)	24.3(24.4)	25.5(25.2)
7 体験活動の充実	16.7(17.2)	31.0(31.2)	9.9(10.1)
8 グローバルな視点を獲得する機会の充実	4.0(4.2)	18.0(18.0)	36.1(34.9)
9 キャリア教育の充実	0.1(0.1)	2.9(3.2)	14.2(14.9)
10 特別な支援を必要とする児童・生徒への指導・支援の充実	8.5(8.5)	10.1(10.1)	4.9(4.8)
11 部活動の充実	0.6(0.5)	33.4(33.8)	13.2(13.2)
12 就職支援の充実	—(—)	0.4(0.4)	23.9(24.4)
13 高等学校における専門教育の充実	0.1(0.0)	0.5(0.5)	45.3(44.4)
14 地方活性化への取り組みなど、現代的な諸課題に対応する力の育成	0.6(0.6)	2.6(2.6)	24.7(24.9)
15 高等学校における定時制・通信制課程の充実	0.2(0.2)	—(—)	9.4(9.6)
16 高校中退者などの学び直し教育の充実	0.1(0.1)	0.1(0.1)	13.5(13.9)
17 主権者教育、消費者教育の充実	0.2(0.2)	0.8(0.8)	6.1(6.3)
18 防災教育の充実	3.4(3.7)	3.3(3.4)	6.5(6.6)
19 その他	1.1(1.3)	1.3(1.4)	1.4(1.5)
(無回答)	2.6(2.8)	2.8(3.0)	3.1(3.3)

小学校教育で力を入れてほしいことについて、「豊かな心の育成」66.2%が最も高く、次いで「基本的な生活習慣・規律の確立」53.4%、「健康な体づくりと体力の向上」52.5%、「学力・学習意欲の向上」49.4%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「豊かな心の育成」66.0%が最も高く、次いで「基本的な生活習慣・規律の確立」52.8%、「健康な体づくりと体力の向上」52.0%、「学力・学習意欲の向上」49.0%などとなっている。

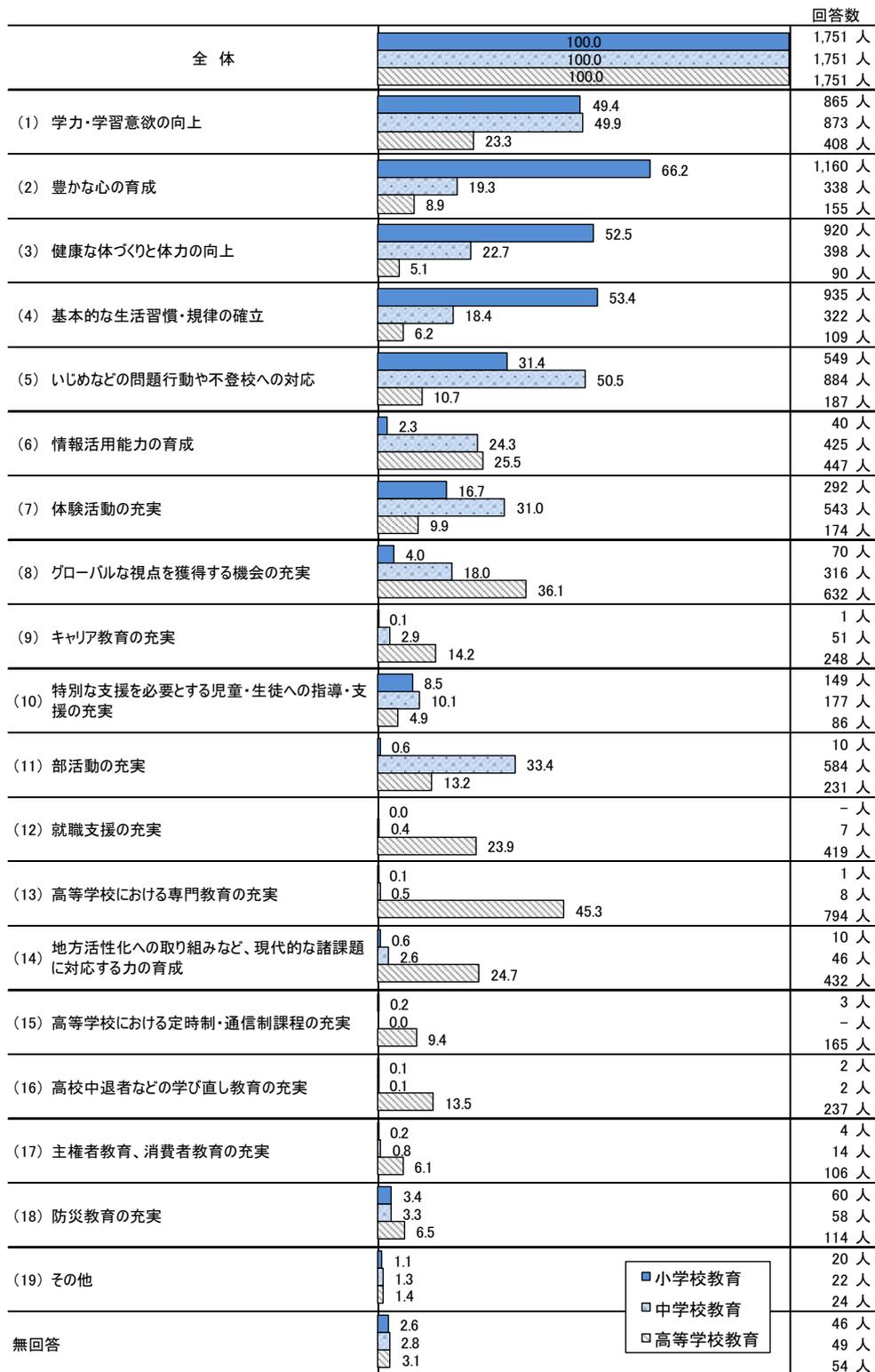
中学校教育で力を入れてほしいことについて、「いじめなどの問題行動や不登校への対応」50.5%が最も高く、次いで「学力・学習意欲の向上」49.9%、「部活動の充実」33.4%、「体験活動の充実」31.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「いじめなどの問題行動や不登校への対応」50.3%が最も高く、次いで「学力・学習意欲の向上」49.2%、「部活動の充実」33.8%、「体験活動の充実」31.2%などとなっている。

高等学校教育で力を入れてほしいことについて、「高等学校における専門教育の充実」45.3%が最も高く、次いで「グローバルな視点を獲得する機会の充実」36.1%、「情報活用能力の育成」25.5%、「地方活性化への取り組みなど、現代的な諸課題に対応する力の育成」24.7%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「高等学校における専門教育の充実」44.4%が最も高く、次いで「グローバルな視点を獲得する機会の充実」34.9%、「情報活用能力の育成」25.2%、「地方活性化への取り組みなど、現代的な諸課題に対応する力の育成」24.9%などとなっている。

図表 1-(3)-1 小学校教育、中学校教育、高等学校教育で力を入れてほしいことについて



グラフ単位：(%)

(4) 特別支援教育の充実に必要だと思うものについて

問4 特別支援教育の充実に、必要だと思うものを3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】※回答数の多い順に並び替え

1	特別支援教育に関する正しい理解が広まるよう努めること	61.3%(62.1%)
2	医療、保健、福祉、労働など関係機関や専門家との連携の推進	44.3%(43.9%)
3	障害の状態などに応じた施設整備など教育環境の整備充実	42.0%(41.0%)
4	特別支援教育に関する教職員の専門性の向上	39.3%(38.9%)
5	障害のない児童生徒との交流や共同学習の推進	36.6%(37.0%)
6	進級時や進学時における適切な引き継ぎなどによる一貫した指導・支援の充実	33.3%(33.1%)
7	教育相談体制の整備と充実	23.9%(23.9%)
8	その他（具体的に：_____）	1.8%(1.8%)
	（無回答）	2.2%(2.3%)

特別支援教育の充実に必要だと思うものについて、「特別支援教育に関する正しい理解が広まるよう努めること」61.3%が最も高く、次いで「医療、保健、福祉、労働など関係機関や専門家との連携の推進」44.3%、「障害の状態などに応じた施設整備など教育環境の整備充実」42.0%、「特別支援教育に関する教職員の専門性の向上」39.3%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「特別支援教育に関する正しい理解が広まるよう努めること」62.1%が最も高く、次いで「医療、保健、福祉、労働など関係機関や専門家との連携の推進」43.9%、「障害の状態などに応じた施設整備など教育環境の整備充実」41.0%、「特別支援教育に関する教職員の専門性の向上」38.9%などとなっている。

図表 1-(4)-1 特別支援教育の充実に必要だと思うものについて

		回答数
全体	100.0	1,751 人
(1) 特別支援教育に関する正しい理解が広まるよう努めること	61.3	1,074 人
(2) 医療、保健、福祉、労働など関係機関や専門家との連携の推進	44.3	775 人
(3) 障害の状態などに応じた施設整備など教育環境の整備充実	42.0	735 人
(4) 特別支援教育に関する教職員の専門性の向上	39.3	688 人
(5) 障害のない児童生徒との交流や共同学習の推進	36.6	640 人
(6) 進級時や進学時における適切な引き継ぎなどによる一貫した指導・支援の充実	33.3	583 人
(7) 教育相談体制の整備と充実	23.9	418 人
(8) その他	1.8	31 人
無回答	2.2	38 人

グラフ単位：(%)

(5) 家庭におけるしつけや学習などの教育状況について

問5 家庭において、しつけや学習などの教育が十分にできていると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

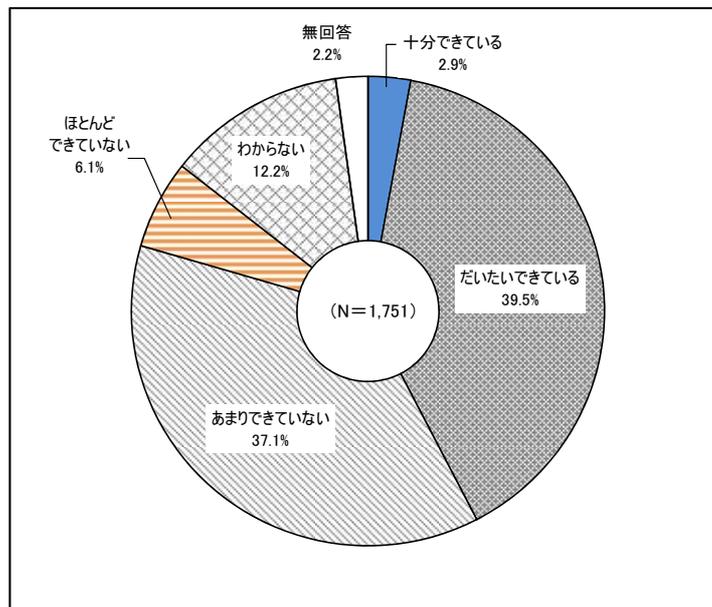
【回答者数=1,751】

1 十分できている	2.9% (3.2%)
2 だいたいできている	39.5% (39.6%)
3 あまりできていない	37.1% (36.1%)
4 ほとんどできていない	6.1% (6.1%)
5 わからない	12.2% (12.6%)
(無回答)	2.2% (2.3%)

家庭におけるしつけや学習などの教育状況について、「だいたいできている」39.5%が最も高く、次いで「あまりできていない」37.1%、「わからない」12.2%、「ほとんどできていない」6.1%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「だいたいできている」39.6%が最も高く、次いで「あまりできていない」36.1%、「わからない」12.6%、「ほとんどできていない」6.1%などとなっている。

図表 1-(5)-1 家庭におけるしつけや学習などの教育状況について



(6)家庭教育の充実に必要なものについて

問6 家庭での教育を充実させるために必要だと思うものを2つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】※回答数の多い順に並び替え

1 親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善	46.3%(46.2%)
2 親の子どもへの積極的な関わり	45.5%(45.2%)
3 子どもが体験活動を行う機会の提供	30.8%(30.7%)
4 家庭教育の重要性についての啓発	23.5%(23.1%)
5 子どもや親同士が交流できる機会の提供	21.9%(22.3%)
6 家庭教育に関する相談体制の充実	17.1%(17.1%)
7 その他(具体的に：_____)	2.5%(2.8%)
(無回答)	2.1%(2.2%)

家庭教育の充実に必要なものについて、「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」46.3%が最も高く、次いで「親の子どもへの積極的な関わり」45.5%、「子どもが体験活動を行う機会の提供」30.8%、「家庭教育の重要性についての啓発」23.5%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善」46.2%が最も高く、次いで「親の子どもへの積極的な関わり」45.2%、「子どもが体験活動を行う機会の提供」30.7%、「家庭教育の重要性についての啓発」23.1%などとなっている。

図表 1-(6)-1 家庭教育の充実に必要なものについて

	割合	回答数
全体	100.0	1,751 人
(1) 親が子どもと過ごす時間を十分にとるための就労環境の改善	46.3	810 人
(2) 親の子どもへの積極的な関わり	45.5	797 人
(3) 子どもが体験活動を行う機会の提供	30.8	539 人
(4) 家庭教育の重要性についての啓発	23.5	411 人
(5) 子どもや親同士が交流できる機会の提供	21.9	383 人
(6) 家庭教育に関する相談体制の充実	17.1	300 人
(7) その他	2.5	43 人
無回答	2.1	37 人

グラフ単位：(%)

(7) 地域における大人と子どもの関わりについて

問7 地域における大人と子どもの関わりについて思うものを1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

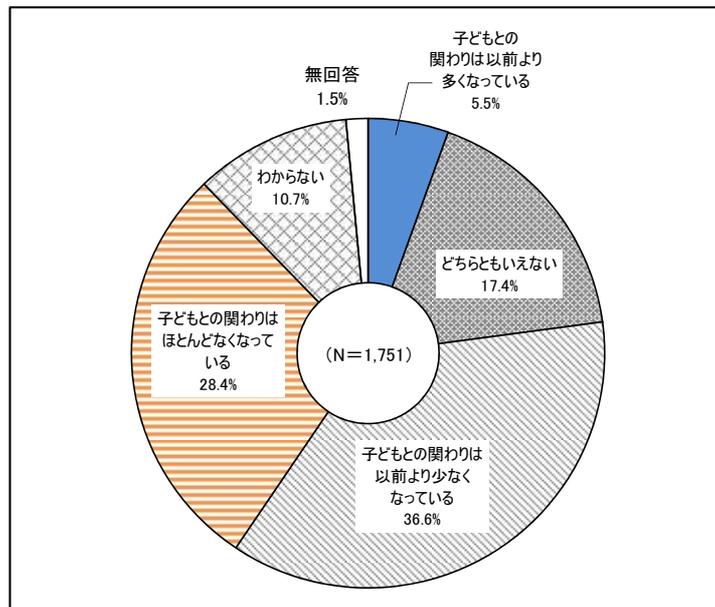
【回答者数=1,751】

1	子どもとの関わりは以前より多くなっている	5.5%(5.8%)
2	どちらともいえない	17.4%(17.5%)
3	子どもとの関わりは以前より少なくなっている	36.6%(36.6%)
4	子どもとの関わりはほとんどなくなっている	28.4%(27.6%)
5	わからない	10.7%(10.9%)
	(無回答)	1.5%(1.6%)

地域における大人と子どもの関わりについて、「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」36.6%が最も高く、次いで「子どもとの関わりはほとんどなくなっている」28.4%、「どちらともいえない」17.4%、「わからない」10.7%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「子どもとの関わりは以前より少なくなっている」36.6%が最も高く、次いで「子どもとの関わりはほとんどなくなっている」27.6%、「どちらともいえない」17.5%、「わからない」10.9%などとなっている。

図表 1-(7)-1 地域における大人と子どもの関わりについて



(8)子どもへの教育的活動で携わりたいものについて

問8 あなたが地域社会で子どもへの教育的活動を実践するとしたら、携わりたいと思うものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】※回答数の多い順に並び替え

1	登下校の見守りなど安心・安全確保への支援	47.6%(47.3%)
2	児童・生徒が地域の大人とともに地域課題に取り組む試み	36.3%(36.2%)
3	学習・スポーツ（部活動、運動会など）・文化活動（文化祭など）への支援	36.0%(36.5%)
4	学校の授業や行事などの参観	32.0%(32.5%)
5	学校や地域の施設を活用した交流活動	31.2%(31.6%)
6	花壇の整備や学校図書館の蔵書整理など学校環境整備への支援	21.4%(21.1%)
7	子育てに関する保護者向けの学習会などへの支援	17.7%(18.4%)
8	学校運営の基本方針や学校の教育活動を評価する委員会への参加	8.5%(8.9%)
9	その他（具体的に：_____） （無回答）	2.1%(2.3%) 4.6%(4.6%)

子どもへの教育的活動で携わりたいものについて、「登下校の見守りなど安心・安全確保への支援」47.6%が最も高く、次いで「児童・生徒が地域の大人とともに地域課題に取り組む試み」36.3%、「学習・スポーツ（部活動、運動会など）・文化活動（文化祭など）への支援」36.0%、「学校の授業や行事などの参観」32.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「登下校の見守りなど安心・安全確保への支援」47.3%が最も高く、次いで「学習・スポーツ（部活動、運動会など）・文化活動（文化祭など）への支援」36.5%、「児童・生徒が地域の大人とともに地域課題に取り組む試み」36.2%、「学校の授業や行事などの参観」32.5%などとなっている。

図表 1-(8)-1 子どもへの教育的活動で携わりたいものについて

		回答数
全体	100.0	1,751 人
(1) 登下校の見守りなど安心・安全確保への支援	47.6	834 人
(2) 児童・生徒が地域の大人とともに地域課題に取り組む試み	36.3	635 人
(3) 学習・スポーツ(部活動、運動会など)・文化活動(文化祭など)への支援	36.0	631 人
(4) 学校の授業や行事などの参観	32.0	561 人
(5) 学校や地域の施設を活用した交流活動	31.2	546 人
(6) 花壇の整備や学校図書館の蔵書整理など学校環境整備への支援	21.4	375 人
(7) 子育てに関する保護者向けの学習会などへの支援	17.7	310 人
(8) 学校運営の基本方針や学校の教育活動を評価する委員会への参加	8.5	148 人
(9) その他	2.1	36 人
無回答	4.6	80 人

グラフ単位：(%)

(9)子どもたちに必要な資質・能力について

問9 これからの子どもたちに必要だと思う資質・能力を3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】※回答数の多い順に並び替え

1	自ら考え判断する力	50.2%(50.4%)
2	自分の考えを的確に相手に伝える力などの コミュニケーション能力	49.2%(49.1%)
3	自分と異なる考え方を理解し受け入れる態度	34.9%(34.6%)
4	豊かな心	28.5%(28.0%)
5	健康と体力	27.5%(27.7%)
6	読み・書き・計算などの基礎的な学力	27.2%(27.7%)
7	国際感覚や語学力	21.6%(21.1%)
8	コンピューターやインターネットを使いこなす力	20.6%(20.9%)
9	豊かな創造性、新しい価値を生み出す力	19.8%(19.6%)
10	主体的に学習に取り組む態度	8.3%(8.3%)
11	郷土への理解、郷土愛	6.7%(6.9%)
12	その他（具体的に_____） （無回答）	0.5%(0.5%) 1.1%(1.1%)

子どもたちに必要な資質・能力について、「自ら考え判断する力」50.2%が最も高く、次いで「自分の考えを的確に相手に伝える力などのコミュニケーション能力」49.2%、「自分と異なる考え方を理解し受け入れる態度」34.9%、「豊かな心」28.5%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「自ら考え判断する力」50.4%が最も高く、次いで「自分の考えを的確に相手に伝える力などのコミュニケーション能力」49.1%、「自分と異なる考え方を理解し受け入れる態度」34.6%、「豊かな心」28.0%などとなっている。

図表 1-(9)-1 子どもたちに必要な資質・能力について

		回答数
全体	100.0	1,751 人
(1) 自ら考え判断する力	50.2	879 人
(2) 自分の考えを的確に相手に伝える力などのコミュニケーション能力	49.2	862 人
(3) 自分と異なる考え方を理解し受け入れる態度	34.9	611 人
(4) 豊かな心	28.5	499 人
(5) 健康と体力	27.5	481 人
(6) 読み・書き・計算などの基礎的な学力	27.2	476 人
(7) 国際感覚や語学力	21.6	379 人
(8) コンピューターやインターネットを使いこなす力	20.6	360 人
(9) 豊かな創造性、新しい価値を生み出す力	19.8	346 人
(10) 主体的に学習に取り組む態度	8.3	145 人
(11) 郷土への理解、郷土愛	6.7	117 人
(12) その他	0.5	8 人
無回答	1.1	19 人

グラフ単位：(%)

(10)子どもたちの教育環境で大切なものについて

問10 子どもたちの教育環境で大切だと思うものを3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】※回答数の多い順に並び替え

1	教員の資質や指導力を向上させること	47.3%(46.3%)
2	パソコン・タブレット端末や電子黒板などの ICT環境を整備すること	44.9%(44.4%)
3	教員がゆとりをもって子どもと向き合えるように教員の 数を増やすこと	44.1%(43.6%)
4	学校と家庭や地域のつながりを深めること	30.0%(30.8%)
5	保護者の教育費の負担を少なくすること	25.9%(26.2%)
6	障害のある子どもへの適切な指導や必要な支援が 行われること	24.7%(24.6%)
7	学科・コースの新設など魅力ある高校づくりを進めること	23.2%(23.1%)
8	学校の施設や設備を整備すること	22.6%(22.9%)
9	家庭での教育が充実できるようにすること	14.8%(15.2%)
10	その他（具体的に：_____）	1.6%(1.8%)
	（無回答）	1.4%(1.5%)

子どもたちの教育環境で大切なものについて、「教員の資質や指導力を向上させること」47.3%が最も高く、次いで「パソコン・タブレット端末や電子黒板などのICT環境を整備すること」44.9%、「教員がゆとりをもって子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと」44.1%、「学校と家庭や地域のつながりを深めること」30.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「教員の資質や指導力を向上させること」46.3%が最も高く、次いで「パソコン・タブレット端末や電子黒板などのICT環境を整備すること」44.4%、「教員がゆとりをもって子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと」43.6%、「学校と家庭や地域のつながりを深めること」30.8%などとなっている。

図表 1-(10)-1 子どもたちの教育環境で大切なものについて

		回答数
全体	100.0	1,751 人
(1) 教員の資質や指導力を向上させること	47.3	829 人
(2) パソコン・タブレット端末や電子黒板などのICT環境を整備すること	44.9	787 人
(3) 教員がゆとりをもって子どもと向き合えるように教員の数を増やすこと	44.1	772 人
(4) 学校と家庭や地域のつながりを深めること	30.0	525 人
(5) 保護者の教育費の負担を少なくすること	25.9	454 人
(6) 障害のある子どもへの適切な指導や必要な支援が行われること	24.7	432 人
(7) 学科・コースの新設など魅力ある高校づくりを進めること	23.2	407 人
(8) 学校の施設や設備を整備すること	22.6	396 人
(9) 家庭での教育が充実できるようにすること	14.8	259 人
(10) その他	1.6	28 人
無回答	1.4	25 人

グラフ単位：(%)

(11)生涯学習の充実に必要なものについて

問11 生涯学習を充実させるために必要だと思うものを3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】※回答数の多い順に並び替え

1	学習についての情報提供を充実する	47.4%(47.6%)
2	住民の希望に合う講座・教室・イベントなどを増やす	44.2%(43.3%)
3	生涯学習関係施設の利便性を高める（夜間・休日利用や学校施設の開放など）	42.8%(42.3%)
4	職業や資格取得などに役立つような高度な内容の講座を増やす	35.9%(35.9%)
5	乳幼児などを抱える親や障害をもつ人が学習活動に参加できるようにする	34.1%(34.5%)
6	交流機能や学習相談など、さまざまな機能を備えた施設の充実にを図る	28.3%(28.8%)
7	学習の成果を生かせる機会（人材バンク、学習指導・発表の場など）を充実する	25.8%(26.1%)
8	その他（具体的に：_____）	1.5%(1.4%)
	（無回答）	2.5%(2.5%)

生涯学習の充実に必要なものについて、「学習についての情報提供を充実する」47.4%が最も高く、次いで「住民の希望に合う講座・教室・イベントなどを増やす」44.2%、「生涯学習関係施設の利便性を高める（夜間・休日利用や学校施設の開放など）」42.8%、「職業や資格取得などに役立つような高度な内容の講座を増やす」35.9%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「学習についての情報提供を充実する」47.6%が最も高く、次いで「住民の希望に合う講座・教室・イベントなどを増やす」43.3%、「生涯学習関係施設の利便性を高める（夜間・休日利用や学校施設の開放など）」42.3%、「職業や資格取得などに役立つような高度な内容の講座を増やす」35.9%などとなっている。

図表 1-(11)-1 生涯学習の充実に必要なものについて

		回答数
全体	100.0	1,751 人
(1) 学習についての情報提供を充実する	47.4	830 人
(2) 住民の希望に合う講座・教室・イベントなどを増やす	44.2	774 人
(3) 生涯学習関係施設の利便性を高める(夜間・休日利用や学校施設の開放など)	42.8	749 人
(4) 職業や資格取得などに役立つような高度な内容の講座を増やす	35.9	628 人
(5) 乳幼児などを抱える親や障害をもつ人が学習活動に参加できるようにする	34.1	597 人
(6) 交流機能や学習相談など、さまざまな機能を備えた施設の充実を図る	28.3	496 人
(7) 学習の成果を生かせる機会(人材バンク、学習指導・発表の場など)を充実する	25.8	452 人
(8) その他	1.5	26 人
無回答	2.5	44 人

グラフ単位：(%)

(12) 過去1年間に運動やスポーツなどを行った日数について

問12 過去1年間に、運動やスポーツ（ウォーキング（例：散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩き）、階段昇降、軽い体操（例：ラジオ体操・職場体操・美容体操）、野外活動（例：登山・キャンプ・釣り）などを含む。）を行った日数はどのくらいありますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】

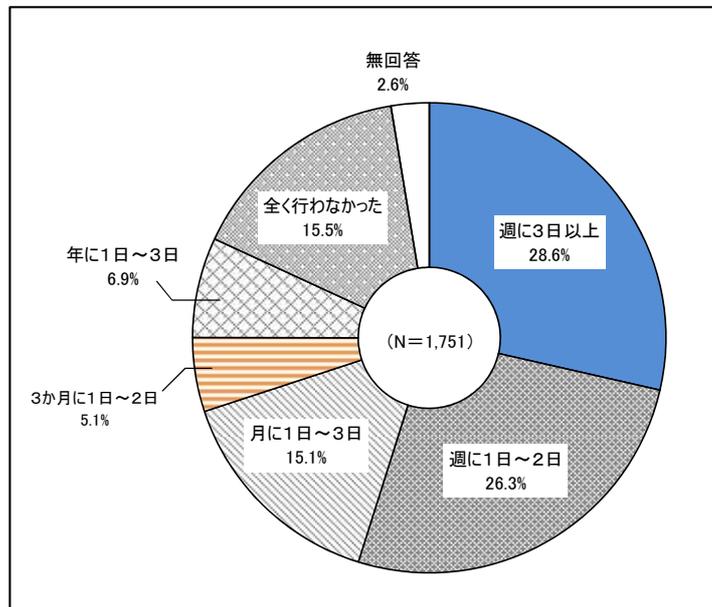
1	週に3日以上	28.6%(29.3%)
2	週に1日～2日	26.3%(25.9%)
3	月に1日～3日	15.1%(14.7%)
4	3か月に1日～2日	5.1%(5.0%)
5	年に1日～3日	6.9%(6.6%)
6	全く行わなかった (無回答)	15.5%(15.8%) 2.6%(2.7%)

⇒ 付問1にお進みください

過去1年間に運動やスポーツなどを行った日数について、「週に3日以上」28.6%が最も高く、次いで「週に1日～2日」26.3%、「全く行わなかった」15.5%、「月に1日～3日」15.1%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「週に3日以上」29.3%が最も高く、次いで「週に1日～2日」25.9%、「全く行わなかった」15.8%、「月に1日～3日」14.7%などとなっている。

図表 1-(12)-1 過去1年間に運動やスポーツなどを行った日数について



(13)実施した運動やスポーツについて

【問12で「1」～「5」と答えた方にお聞きします】

付問1 実施した運動やスポーツのうち、頻度の高い種目を3つまで記入してください。(学校の授業や、職業として行ったものは除きます。)

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,434】※回答数の多い順に並び替え

1 ウォーキング	70.6%(70.4%)
2 体操	35.1%(34.8%)
3 トレーニング	9.6%(10.2%)
4 登山	7.5%(7.3%)
5 階段昇降	6.8%(6.9%)
6 釣り	6.8%(7.0%)
7 ランニング・ジョギング	5.6%(6.0%)
8 テニス・卓球・バドミントン	5.6%(5.9%)
9 自転車・サイクリング	5.0%(5.3%)
10 ゴルフ	3.8%(3.7%)
(無回答)	11.2%(11.4%)

※上位10項目のみ記載

実施した運動やスポーツについて、「ウォーキング」70.6%が最も高く、次いで「体操」35.1%、「トレーニング」9.6%、「登山」7.5%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ウォーキング」70.4%が最も高く、次いで「体操」34.8%、「トレーニング」10.2%、「登山」7.3%などとなっている。

図表 1-(13)-1 実施した運動やスポーツについて

	割合	回答数
全体	100.0	1,434 人
(1) ウォーキング	70.6	1,013 人
(2) 体操	35.1	503 人
(3) トレーニング	9.6	138 人
(4) 登山	7.5	107 人
(5) 階段昇降	6.8	98 人
(6) 釣り	6.8	98 人
(7) ランニング・ジョギング	5.6	81 人
(8) テニス・卓球・バドミントン	5.6	81 人
(9) 自転車・サイクリング	5.0	72 人
(10) ゴルフ	3.8	54 人
無回答	11.2	161 人

グラフ単位：(%)

(14) 今まで以上に運動やスポーツをする条件について

問13 どのような条件が整えば、今まで以上に運動やスポーツをしたいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】※回答数の多い順に並び替え

1	一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば	35.9%(36.6%)
2	気に入った運動・スポーツがあれば	34.2%(34.1%)
3	スポーツ施設が身近にあれば	32.4%(32.3%)
4	スポーツ施設の利用料金が安くなれば	30.3%(30.0%)
5	休暇(自由時間)が増加すれば	30.1%(29.8%)
6	気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば	29.5%(29.5%)
7	現状で満足している	17.1%(17.1%)
8	スポーツ教室やスポーツイベントが開催されれば	11.5%(11.7%)
9	スポーツ指導者がいれば	7.7%(7.5%)
10	その他	4.1%(4.2%)
	(無回答)	3.3%(3.4%)

今まで以上に運動やスポーツをする条件について、「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」35.9%が最も高く、次いで「気に入った運動・スポーツがあれば」34.2%、「スポーツ施設が身近にあれば」32.4%、「スポーツ施設の利用料金が安くなれば」30.3%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば」36.6%が最も高く、次いで「気に入った運動・スポーツがあれば」34.1%、「スポーツ施設が身近にあれば」32.3%、「スポーツ施設の利用料金が安くなれば」30.0%などとなっている。

図表 1-(14)-1 今まで以上に運動やスポーツをする条件について

		回答数
全体	100.0	1,751 人
(1) 一緒に運動やスポーツを行う仲間がいれば	35.9	628 人
(2)気に入った運動・スポーツがあれば	34.2	598 人
(3) スポーツ施設が身近にあれば	32.4	567 人
(4) スポーツ施設の利用料金が安くなれば	30.3	530 人
(5) 休暇(自由時間)が増加すれば	30.1	527 人
(6) 気軽に参加できるスポーツクラブやサークルがあれば	29.5	517 人
(7) 現状で満足している	17.1	299 人
(8) スポーツ教室やスポーツイベントが開催されれば	11.5	201 人
(9) スポーツ指導者がいれば	7.7	135 人
(10) その他	4.1	71 人
無回答	3.3	57 人

グラフ単位: (%)

(15)教育についての意見・要望について

問14 その他教育に関するご意見、ご要望を、自由にご記入ください。

207件中意見を抜粋

「1. 教員の資質向上、職場環境の改善」

- ・授業以外の雑務が昔に比べて教員の立場にある人に多くなり、生徒との触れ合う時間が少ないように思います。授業以外で先生と生徒が触れ合った時間は生涯の思い出、宝物になると思います。
- ・教員個々の人格の尊重向上させ、目的をはっきりさせ指導方法をマニュアル化しない。教員同志で互いに「先生」と呼び合うのはやめた方がいいと思う。親の教育機関があればいいと思う親が増えてきている気がする。
- ・高・中学校の部活動指導者の能力向上、先生方の負担軽減のため、外部指導者を入れてほしい。
- ・教員の資質を向上させるためには人員が必要。時間外が多くなったり、ゆとりがなくなったりすることも理由の一つとなり、職員同士の人間関係（いじめ）が悪くなっているのが現状。人員を（正規）増やすべきだと思う。

「2. 学習環境の充実」

- ・休校が続き、教育の在り方が変わってきつつある中で、「学ぶ機会」が失われることのない様、いろいろなツールを活用し、年齢、場所（環境）等ごとに可能な、ベストな学びの場を作っていただきたい。空白の一年間となることのない様お願いしたいです。
- ・不登校の支援、先生をもっと多くしてほしい。不登校児の関わり方の先生の対応の仕方。
- ・子供達はよく将来の夢とか、なりたい職業について問われますが、ほとんどの子供達は何になるかということが見つけられずに、高校大学と進むと思います。色々なものを知れるように教育して欲しいです。夢が見つかる、それにはどうすれば向かって行け、どうすれば叶うという道筋を教育して欲しいです。
- ・本を読む環境を整え、機会を増やすことで文章理解力、想像力が向上すると思う。

「3. スポーツに親しむ習慣が身につくようにする」

- ・図書館や文化、スポーツ施設の一層の充実を望みます。
- ・子どもの運動不足。
- ・スポーツに使う道具か場所を貸してくれる施設があれば良いのと思う。
- ・年令別の運動教室があればよい。スポーツインストラクターの指導が適切であればよい。
- ・外で遊べるような環境の整備を検討してほしい。自宅等でゲームをする時間が多いため。

「4. コロナ対策」

- ・コロナ禍なので、県が中心となり、オンライン授業の導入を急いでほしい。第2波、第3波に備えてほしい。休校で、することがなく、元気のない子供達が可哀想でした。
- ・コロナの影響で今までの教育に対する価値観が全然変わった。今まで発達障害でコミュニケーションが苦手、家で過ごしてきた我が子は、いつも「どうやったら外に出て、人と接することが出来るのか？」と言われて問題にされてきたが、今はこの様な子供から「どうやって家で快適に過ごせるか学ぼう。」というふうに。結局、何が正しいやら分からない。そんなものに振り回されたくない。多様性にもっと寛大な日本になって欲しいと希望している。

「5. 基本的な生活習慣が身につくようにする（あいさつなど）」

- ・今の時代子どもたちを擁護しすぎる。怖いもの知らずと怖さを知っているは違う。教育者にもっと権限を持たさなければいけない。この先ろくな大人が出て来なくなる。

- ・子どもの自主性と思いやりを育てるような取り組みをしてほしい。
- ・近年の子供や若年層の方々是他者への気遣いや思いやりのある方が少ないように思います。幼児期や小学校のしつけ、道徳心や社会性を育てる教育や環境の整備を充実させるべきだと思います。
- ・教育機関でないとできない子供の体験・社会性の育み、家庭内における自立支援の見守り・育児の一貫をそれぞれの立場で子どもに関わる環境づくりを考えてほしい。家庭内での基本的な生活環境の意識強化を図るべきだと思う。自分で考えずに他者からの指示待ちの子が増えた気がする。

「6. その他」

- ・子どものゲーム依存の問題。子供の成長に影響を及ぼしそうで怖い。
- ・社会に出てからのことをもっと在学中に学んでおきたかった。保険や選挙、就職時のマナー、商品の作り手と消費者の関係性やお金の流れなど。大人数で生活する学校ならではの人間関係の構築は人それぞれだとは思いますが、多様性を受け入れること（批判ではなく）に関する勉強があれば役に立つと思う。教員側へのフォローがあると先生たちも仕事のしやすさが違ってくるのではと思う。
- ・周りの方を大切に常にあらゆることに感謝の持てる人格作りをしていただきたいと願っています。
- ・もう少し周りの人たちが理解していただいて障害者の人たちを大切にしてもらいたい。差別が多いとよく感じられます。
- ・昔なら問題児として片付けられていた発達障害のある子どもなどへの先生方の理解を深めていただきたい。また、そのような教育の場も設けてほしい。
- ・今回の事態（コロナ）で、オンラインの環境を整えることの必要性を感じました。様々な災害にも備えることは、今後ますます大切になってくると思います。
- ・電子化が進む現代、年配の教員のデジタル技術を扱う能力の改善。黒板に板書する時間はとても無駄だと思います。生徒に筆記させるのは手を使って頭を刺激し覚えることにつながると思っていますが、教員側の板書は不要かと。
- ・英語をもっと力を入れて授業内容に取り組むべきだと思う。楽しく学ぶことが出来れば英語に興味を持ち必ず将来役立つ。
- ・理系の教育に力を入れるべきだと思う。
- ・スマートフォンの普及により文字を書く、読む力が弱まってはいないか。漢字を書く、読む習慣をしっかりと身に付けさせてほしい。正しい日本語を話せるようになってほしい。（正しい意味を知らずに話している人が多いため）
- ・教育は誰かが専門的に行うことではなく、地域、家庭、学校などがチームになって行うものだと思います。（専門的に行う場面もあると思いますが）なので、あらゆる方向から多様な意見を聞き、子どもたちの明るい未来のために行動していくことが大切だと思います。また、自分の将来をどうしたいか、学校を出たその先について子どもたちに考えさせる時間を増やしてもよいと思います。
- ・郷土の歴史、県民として知っておきたい文化や風土、郷土料理などについて、先人から受け継ぎ、将来のため引き継ぐための教育がぜひ必要と思います。
- ・広い視野を身に付けられるような教育、情報（正しい）を多く取り入れられる教育などが多くなれば、一人一人の個人レベルの上昇を図ることが出来ると思う。

2. 障害福祉について

(1) 障害福祉の関心度について

問15 あなたは、障害福祉についてどの程度ご関心がありますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

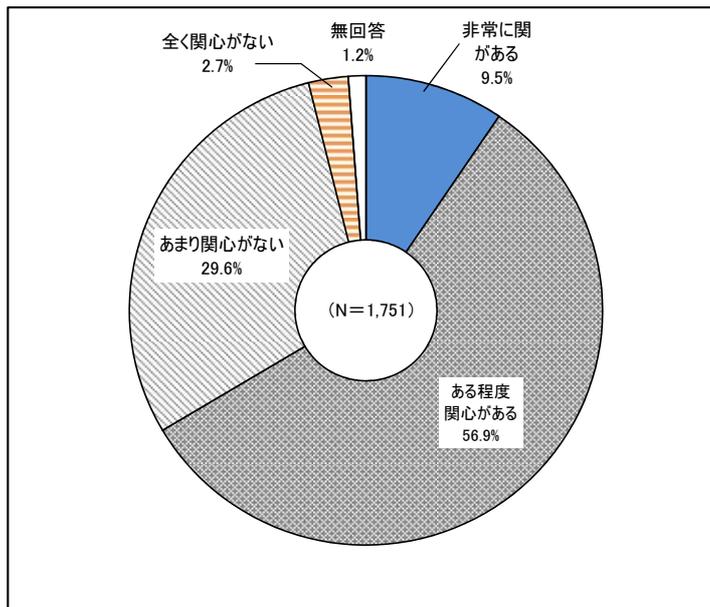
【回答者数=1,751】

1 非常に関心がある	9.5% (9.6%)	} ⇒ 付問2にお進みください
2 ある程度関心がある	56.9% (56.4%)	
3 あまり関心がない	29.6% (29.5%)	
4 全く関心がない	2.7% (3.2%)	
(無回答)	1.2% (1.3%)	

障害福祉の関心度について、「ある程度関心がある」56.9%が最も高く、次いで「あまり関心がない」29.6%、「非常に関心がある」9.5%、「全く関心がない」2.7%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ある程度関心がある」56.4%が最も高く、次いで「あまり関心がない」29.5%、「非常に関心がある」9.6%、「全く関心がない」3.2%となっている。

図表 2-(1)-1 障害福祉の関心度について



(2)障害福祉に関心が持てない理由について

【問 15 で「3」または「4」と答えた方にお聞きします】

付問 2 障害福祉に関心が持てない理由を1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

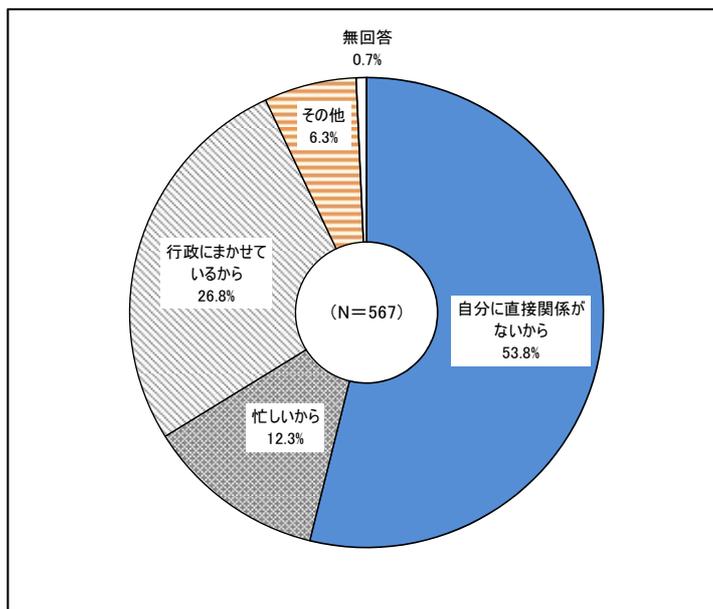
【回答者数=567】

1 自分に直接関係がないから	53.8%(55.3%)
2 忙しいから	12.3%(11.8%)
3 行政にまかせているから	26.8%(25.6%)
4 その他（具体的に：_____）	6.3%(6.3%)
（無回答）	0.7%(1.0%)

障害福祉に関心が持てない理由について、「自分に直接関係がないから」53.8%が最も高く、次いで「行政にまかせているから」26.8%、「忙しいから」12.3%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「自分に直接関係がないから」55.3%が最も高く、次いで「行政にまかせているから」25.6%、「忙しいから」11.8%などとなっている。

図表 2-(2)-1 障害福祉に関心が持てない理由について



(3) 障害のある方の地域生活への移行について

問16 障害者総合支援法では、障害のある方も可能な限り地域において生活できる社会を目指すことが大きなテーマの一つになっています。具体的には、入所施設を利用し続けるのではなく、地域で福祉サービスを利用しながら自宅やグループホームなどで生活することを目指すものですが、このような考え方について、どのように思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

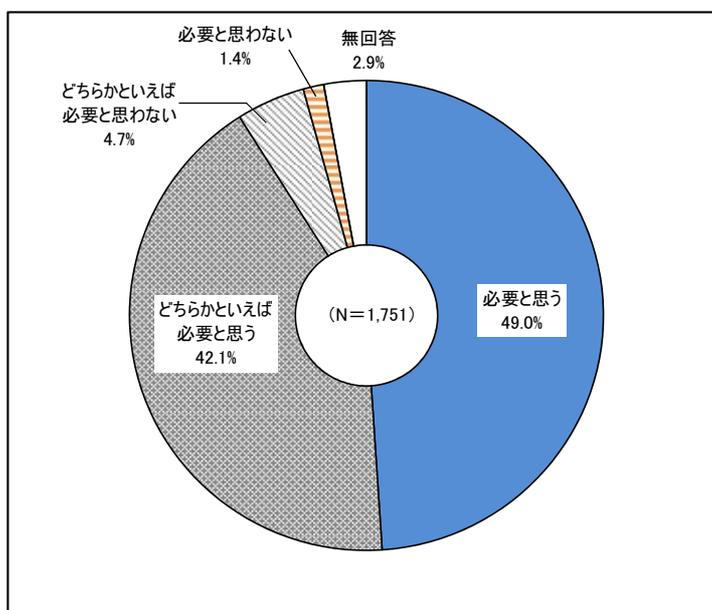
【回答者数=1,751】

1 必要と思う	49.0%(49.0%)	} ⇒ 付問3にお進みください
2 どちらかといえば必要と思う	42.1%(41.9%)	
3 どちらかといえば必要と思わない	4.7%(4.6%)	
4 必要と思わない	1.4%(1.5%)	
(無回答)	2.9%(3.0%)	

障害のある方の地域生活への移行について、「必要と思う」49.0%が最も高く、次いで「どちらかといえば必要と思う」42.1%、「どちらかといえば必要と思わない」4.7%、「必要と思わない」1.4%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「必要と思う」49.0%が最も高く、次いで「どちらかといえば必要と思う」41.9%、「どちらかといえば必要と思わない」4.6%、「必要と思わない」1.5%となっている。

図表 2-(3)-1 障害のある方の地域生活への移行について



(4) 障害のある方が地域で生活するために必要なことについて

【問 16 で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問 3 障害のある方が地域で生活していくためには何が重要だと思いますか。次の中から2つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,595】※回答数の多い順に並び替え

1 障害のある方が働く場の確保、充実	64.4%(64.1%)
2 障害のある方とともに地域で暮らすことに関する 住民意識の醸成	32.0%(31.8%)
3 障害のある方が困ったときに相談できる体制づくり	31.5%(31.4%)
4 ヘルパーの派遣など在宅サービスの充実	19.9%(19.5%)
5 手当、年金などの所得保障の充実	18.9%(19.3%)
6 施設や交通機関などのバリアフリー化	14.2%(14.7%)
7 グループホームなど住まいの確保	10.7%(10.2%)
8 その他（具体的に：_____）	1.0%(1.3%)
（無回答）	1.2%(1.2%)

障害のある方が地域で生活するために必要なことについて、「障害のある方が働く場の確保、充実」64.4%が最も高く、次いで「障害のある方とともに地域で暮らすことに関する住民意識の醸成」32.0%、「障害のある方が困ったときに相談できる体制づくり」31.5%、「ヘルパーの派遣など在宅サービスの充実」19.9%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「障害のある方が働く場の確保、充実」64.1%が最も高く、次いで「障害のある方とともに地域で暮らすことに関する住民意識の醸成」31.8%、「障害のある方が困ったときに相談できる体制づくり」31.4%、「ヘルパーの派遣など在宅サービスの充実」19.5%などとなっている。

図表 2-(4)-1 障害のある方が地域で生活するために必要なことについて

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,595 人
(1) 障害のある方が働く場の確保、充実	64.4	1,027 人
(2) 障害のある方とともに地域で暮らすことに関する住民意識の醸成	32.0	510 人
(3) 障害のある方が困ったときに相談できる体制づくり	31.5	502 人
(4) ヘルパーの派遣など在宅サービスの充実	19.9	318 人
(5) 手当、年金などの所得保障の充実	18.9	301 人
(6) 施設や交通機関などのバリアフリー化	14.2	227 人
(7) グループホームなど住まいの確保	10.7	171 人
(8) その他	1.0	16 人
無回答	1.2	19 人

グラフ単位：(%)

(5) 障害のある方の就労支援について

問17 障害者総合支援法では、障害のある方の就労支援もテーマになっています。これは、障害のある方もできる限りその能力を最大限に生かして、働くことができる社会の実現を目指すものですが、このような考え方についてどのように思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(なお、ここでいう障害のある方とは、障害のある児童や高齢者は含みません。)

※ () 内の割合はウェイトバックした値

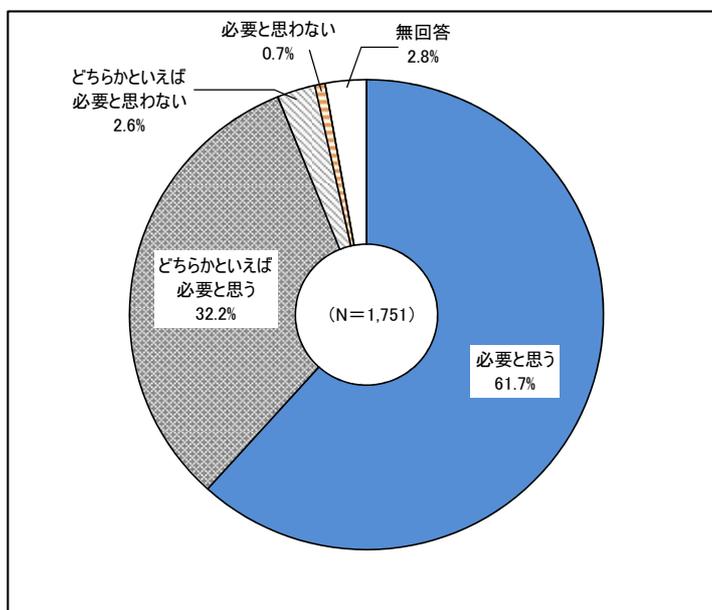
【回答者数=1,751】

1 必要と思う	61.7% (61.4%)	} ⇒ 付問4にお進みください
2 どちらかといえば必要と思う	32.2% (32.4%)	
3 どちらかといえば必要と思わない	2.6% (2.5%)	
4 必要と思わない	0.7% (0.8%)	
(無回答)	2.8% (2.9%)	

障害のある方の就労支援について、「必要と思う」61.7%が最も高く、次いで「どちらかといえば必要と思う」32.2%、「どちらかといえば必要と思わない」2.6%、「必要と思わない」0.7%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「必要と思う」61.4%が最も高く、次いで「どちらかといえば必要と思う」32.4%、「どちらかといえば必要と思わない」2.5%、「必要と思わない」0.8%となっている。

図表 2-(5)-1 障害のある方の就労支援について



(6) 障害のある方が就労するために必要なことについて

【問 17 で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問 4 障害のある方が就労するためには何が重要だと思いますか。次の中から2つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,643】※回答数の多い順に並び替え

1 障害のある方が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解	75.5%(75.2%)
2 就労に向けた訓練施設などの充実	39.1%(39.2%)
3 企業に対する助成制度の充実	34.3%(34.1%)
4 障害者雇用についての企業に対する義務付けの強化	14.7%(14.8%)
5 ハローワークなどにおける職業紹介制度の充実	11.9%(11.9%)
6 障害のある方の家族の理解と協力	11.4%(11.6%)
7 その他（具体的に：_____）	1.9%(1.8%)
（無回答）	0.2%(0.2%)

障害のある方が就労するために必要なことについて、「障害のある方が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解」75.5%が最も高く、次いで「就労に向けた訓練施設などの充実」39.1%、「企業に対する助成制度の充実」34.3%、「障害者雇用についての企業に対する義務付けの強化」14.7%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「障害のある方が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解」75.2%が最も高く、次いで「就労に向けた訓練施設などの充実」39.2%、「企業に対する助成制度の充実」34.1%、「障害者雇用についての企業に対する義務付けの強化」14.8%などとなっている。

図表 2-(6)-1 障害のある方が就労するために必要なことについて

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,643 人
(1) 障害のある方が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解	75.5	1,240 人
(2) 就労に向けた訓練施設などの充実	39.1	643 人
(3) 企業に対する助成制度の充実	34.3	564 人
(4) 障害者雇用についての企業に対する義務付けの強化	14.7	242 人
(5) ハローワークなどにおける職業紹介制度の充実	11.9	196 人
(6) 障害のある方の家族の理解と協力	11.4	187 人
(7) その他	1.9	31 人
無回答	0.2	3 人

グラフ単位：(%)

(7) 障害のある方の権利擁護のために行政が力を入れるべきこと

問 18 障害を理由とする差別の解消に向けて、平成28年4月に障害者差別解消法が施行され、平成30年4月からは「香川県障害のある人もない人も共に安心して暮らせる社会づくり条例」が施行されています。障害のある方の権利擁護（差別や虐待の防止など）について、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から2つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】※回答数の多い順に並び替え

1 障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者などへの指導・支援	49.4%(48.9%)
2 障害者への理解促進のための啓発活動	43.5%(43.4%)
3 障害者虐待の早期発見と早期対応	40.1%(40.6%)
4 障害者差別や虐待についての相談窓口の充実	27.4%(27.8%)
5 成年後見制度についての相談窓口の充実	11.4%(11.3%)
6 成年後見制度についての啓発活動	9.0%(8.9%)
7 その他（具体的に：_____）	1.3%(1.3%)
（無回答）	3.1%(3.1%)

障害のある方の権利擁護のために行政が力を入れるべきことについて、「障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者などへの指導・支援」49.4%が最も高く、次いで「障害者への理解促進のための啓発活動」43.5%、「障害者虐待の早期発見と早期対応」40.1%、「障害者差別や虐待についての相談窓口の充実」27.4%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者などへの指導・支援」48.9%が最も高く、次いで「障害者への理解促進のための啓発活動」43.4%、「障害者虐待の早期発見と早期対応」40.6%、「障害者差別や虐待についての相談窓口の充実」27.8%などとなっている。

図表 2-(7)-1 障害のある方の権利擁護のために行政が力を入れるべきことについて

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,751 人
(1) 障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者などへの指導・支援	49.4	865 人
(2) 障害者への理解促進のための啓発活動	43.5	761 人
(3) 障害者虐待の早期発見と早期対応	40.1	702 人
(4) 障害者差別や虐待についての相談窓口の充実	27.4	480 人
(5) 成年後見制度についての相談窓口の充実	11.4	199 人
(6) 成年後見制度についての啓発活動	9.0	158 人
(7) その他	1.3	22 人
無回答	3.1	54 人

グラフ単位：(%)

(8)障害のある方の防災対策について

問19 東日本大震災や熊本地震のような災害に備えるため、障害のある方の防災対策として何が必要だと思いますか。次の中から2つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】※回答数の多い順に並び替え

1 障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援	51.8%(51.3%)
2 災害時における障害のある方の避難体制の整備	48.6%(47.0%)
3 地域内での障害のある方の把握	43.2%(42.9%)
4 自主防災組織の充実、避難訓練	17.0%(18.1%)
5 障害のある方が必要とする物資の備蓄	16.6%(17.8%)
6 災害時における情報提供(携帯メールによる情報配信など)の充実	10.9%(10.8%)
7 その他(具体的に: _____)	0.6%(0.6%)
(無回答)	2.2%(2.2%)

障害のある方の防災対策について、「障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援」51.8%が最も高く、次いで「災害時における障害のある方の避難体制の整備」48.6%、「地域内での障害のある方の把握」43.2%、「自主防災組織の充実、避難訓練」17.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援」51.3%が最も高く、次いで「災害時における障害のある方の避難体制の整備」47.0%、「地域内での障害のある方の把握」42.9%、「自主防災組織の充実、避難訓練」18.1%などとなっている。

図表 2-(8)-1 障害のある方の防災対策について

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,751 人
(1) 障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援	51.8	907 人
(2) 災害時における障害のある方の避難体制の整備	48.6	851 人
(3) 地域内での障害のある方の把握	43.2	756 人
(4) 自主防災組織の充実、避難訓練	17.0	297 人
(5) 障害のある方が必要とする物資の備蓄	16.6	290 人
(6) 災害時における情報提供(携帯メールによる情報配信など)の充実	10.9	191 人
(7) その他	0.6	10 人
無回答	2.2	38 人

グラフ単位: (%)

(9)障害のある方が地域でいきいきと暮らすために行政が力を入れるべきことについて

問20 障害のある方が地域でいきいきと暮らすために、行政はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】※回答数の多い順に並び替え

1	障害のある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり	43.1%(42.8%)
2	行政・企業など関係者が協力した就労の促進	32.3%(31.9%)
3	ショートステイやヘルパーの派遣など在宅福祉サービスの充実	29.0%(28.4%)
4	障害のある子どもを支援する体制の充実	27.8%(28.4%)
5	障害のある方に対する県民の理解の促進	27.6%(28.0%)
6	地域で生活するためのグループホーム整備など住まいの確保	23.5%(23.1%)
7	福祉に関わる人材の養成・確保	23.0%(22.7%)
8	手当・年金などの所得保障	21.2%(21.4%)
9	施設、交通機関や情報のバリアフリー	19.1%(19.4%)
10	保健・医療施策の推進	12.3%(12.0%)
11	障害者スポーツ・文化活動の振興	6.1%(6.3%)
12	障害のある方の権利擁護の推進	5.9%(6.1%)
13	防災対策の充実	4.3%(4.5%)
14	その他（具体的に：_____）	1.2%(1.3%)
	（無回答）	2.0%(2.0%)

障害のある方が地域でいきいきと暮らすために行政が力を入れるべきことについて、「障害のある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」43.1%が最も高く、次いで「行政・企業など関係者が協力した就労の促進」32.3%、「ショートステイやヘルパーの派遣など在宅福祉サービスの充実」29.0%、「障害のある子どもを支援する体制の充実」27.8%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「障害のある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」42.8%が最も高く、次いで「行政・企業など関係者が協力した就労の促進」31.9%、同率で「ショートステイやヘルパーの派遣など在宅福祉サービスの充実」、「障害のある子どもを支援する体制の充実」28.4%などとなっている。

図表 2-(9)-1 障害のある方が地域でいきいきと暮らすために行政が力を入れるべきことについて

		回答数
全体	100.0	1,751 人
(1) 障害のある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり	43.1	755 人
(2) 行政・企業など関係者が協力した就労の促進	32.3	565 人
(3) ショートステイやヘルパーの派遣など在宅福祉サービスの充実	29.0	507 人
(4) 障害のある子どもを支援する体制の充実	27.8	486 人
(5) 障害のある方に対する県民の理解の促進	27.6	484 人
(6) 地域で生活するためのグループホーム整備など住まいの確保	23.5	412 人
(7) 福祉に関わる人材の養成・確保	23.0	403 人
(8) 手当・年金などの所得保障	21.2	372 人
(9) 施設、交通機関や情報のバリアフリー	19.1	334 人
(10) 保健・医療施策の推進	12.3	215 人
(11) 障害者スポーツ・文化活動の振興	6.1	107 人
(12) 障害のある方の権利擁護の推進	5.9	103 人
(13) 防災対策の充実	4.3	75 人
(14) その他	1.2	21 人
無回答	2.0	35 人

グラフ単位：(%)

3. 医療機関の適正受診について

(1) 診療時間外の受診について

問21 あなたは夜間などにおいて、比較的症状が軽い場合は、家庭内で対処したり、翌日の通常診療時間内や休日当番医で受診したりするなど、診療時間外の受診を控えるようにしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

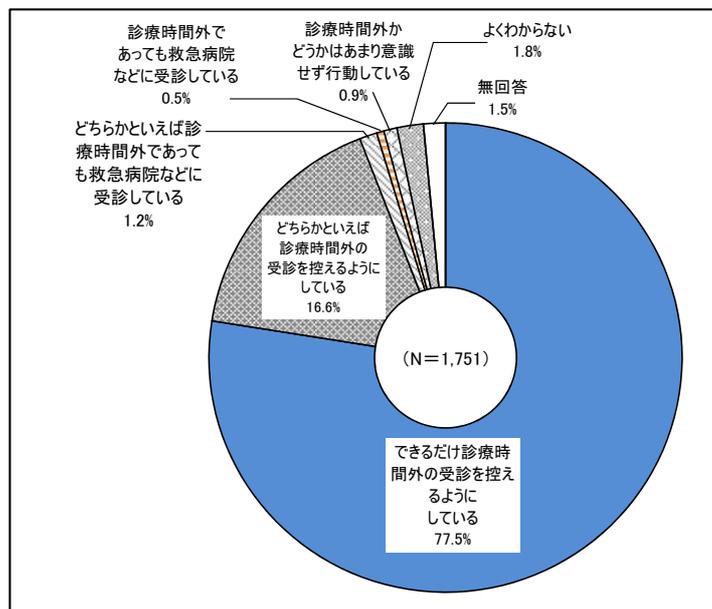
【回答者数=1,751】

1	できるだけ診療時間外の受診を控えるようにしている	77.5% (77.4%)	} ⇒ 付問5にお進みください
2	どちらかといえば診療時間外の受診を控えるようにしている	16.6% (16.3%)	
3	どちらかといえば診療時間外であっても救急病院などに受診している	1.2% (1.3%)	
4	診療時間外であっても救急病院などに受診している	0.5% (0.5%)	
5	診療時間外かどうかはあまり意識せず行動している	0.9% (0.9%)	
6	よくわからない (無回答)	1.8% (1.9%) 1.5% (1.7%)	

診療時間外の受診について、「できるだけ診療時間外の受診を控えるようにしている」77.5%が最も高く、次いで「どちらかといえば診療時間外の受診を控えるようにしている」16.6%、「よくわからない」1.8%、「どちらかといえば診療時間外であっても救急病院などに受診している」1.2%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「できるだけ診療時間外の受診を控えるようにしている」77.4%が最も高く、次いで「どちらかといえば診療時間外の受診を控えるようにしている」16.3%、「よくわからない」1.9%、「どちらかといえば診療時間外であっても救急病院などに受診している」1.3%などとなっている。

図表 3-(1)-1 診療時間外の受診について



(2) 診療時間外でも受診する理由について

【問21で「3」または「4」と答えた方にお聞きします】

付問5 診療時間外であっても救急病院などに受診する理由を1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

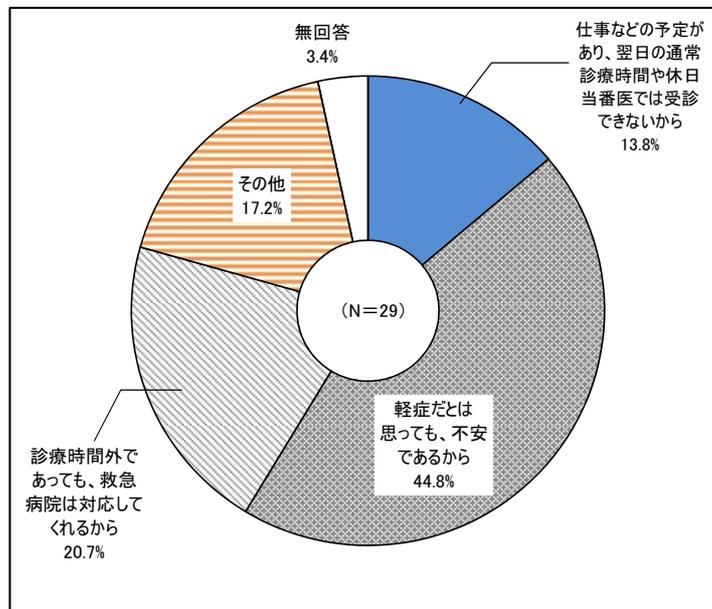
【回答者数=29】

1 仕事などの予定があり、翌日の通常診療時間や休日当番医では受診できないから	13.8%(14.9%)
2 軽症だとは思っても、不安であるから	44.8%(46.2%)
3 診療時間外であっても、救急病院は対応してくれるから	20.7%(19.7%)
4 その他（具体的に：_____） （無回答）	17.2%(16.9%) 3.4%(2.4%)

診療時間外でも受診する理由について、「軽症だとは思っても、不安であるから」44.8%が最も高く、次いで「診療時間外であっても、救急病院は対応してくれるから」20.7%、「その他」17.2%、「仕事などの予定があり、翌日の通常診療時間や休日当番医では受診できないから」13.8%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「軽症だとは思っても、不安であるから」46.2%が最も高く、次いで「診療時間外であっても、救急病院は対応してくれるから」19.7%、「その他」16.9%、「仕事などの予定があり、翌日の通常診療時間や休日当番医では受診できないから」14.9%となっている。

図表 3-(2)-1 診療時間外でも受診する理由について



(3) 診療時間外の特別料金徴収の認知度について

問22 時間外の救急病院への受診は、緊急性が認められないなど、場合によっては、診察代とは別に特別料金を徴収される可能性があることを知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

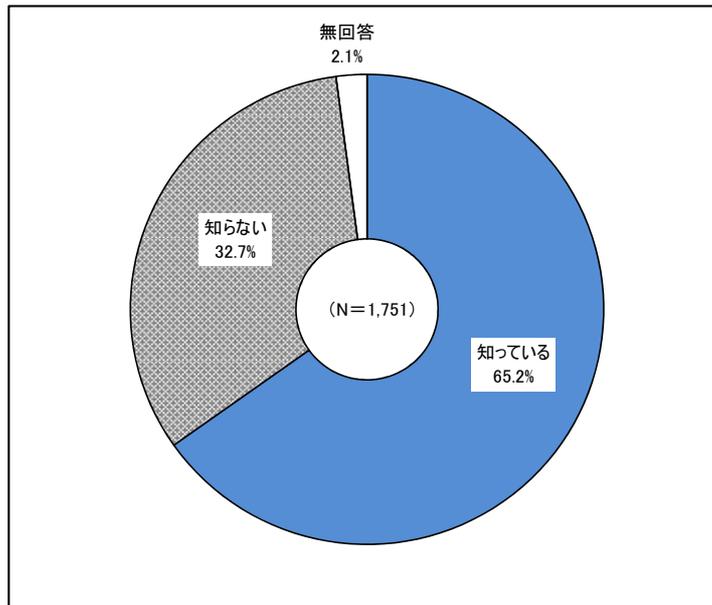
【回答者数=1,751】

1 知っている	65.2%(64.5%)
2 知らない (無回答)	32.7%(33.3%) 2.1%(2.1%)

診療時間外の特別料金徴収の認知度について、「知っている」65.2%が最も高く、次いで「知らない」32.7%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「知っている」64.5%が最も高く、次いで「知らない」33.3%となっている。

図表 3-(3)-1 診療時間外の特別料金徴収の認知度について



(4)小児救急電話相談事業の利用について

問23 香川県では、子どもの急な病気などについて、毎日午後7時から翌朝8時まで、看護師や医師が相談に応じる「小児救急電話相談事業」(#8000、☎087-823-1588)を実施していますが、あなたやあなたの家族はこのことについて知っていますか。また、あなたやあなたの家族は、「小児救急電話相談事業」を利用したことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

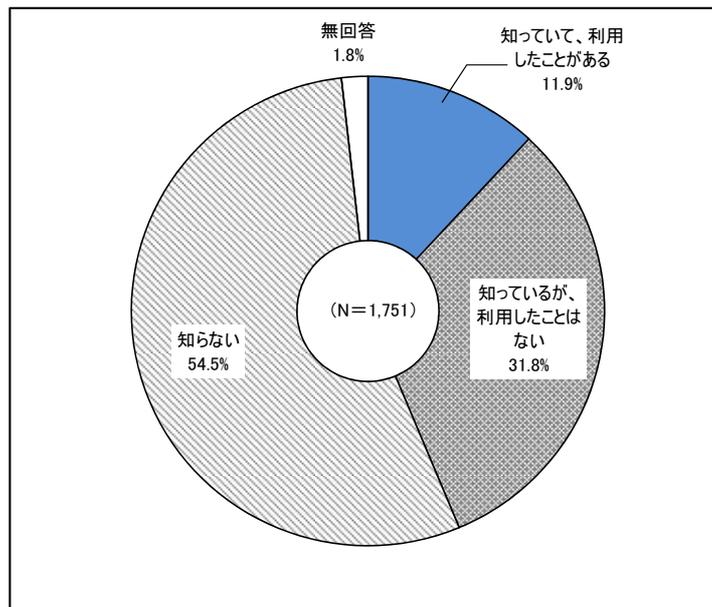
【回答者数=1,751】

1 知っていて、利用したことがある	11.9%(12.0%)
2 知っているが、利用したことはない	31.8%(31.9%)
3 知らない (無回答)	54.5%(54.3%) 1.8%(1.8%)

小児救急電話相談事業の利用について、「知らない」54.5%が最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」31.8%、「知っていて、利用したことがある」11.9%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「知らない」54.3%が最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」31.9%、「知っていて、利用したことがある」12.0%となっている。

図表 3-(4)-1 小児救急電話相談事業の利用について



(5)一般向け救急電話相談事業の利用について

問24 香川県では、毎日午後7時から翌朝8時まで、15歳以上を対象に、看護師や医師が相談に応じる「一般向け救急電話相談事業」(#7899、☎087-812-1055)を実施していますが、あなたやあなたの家族はこのことについて知っていますか。また、あなたやあなたの家族は「一般向け救急電話相談事業」を利用したことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

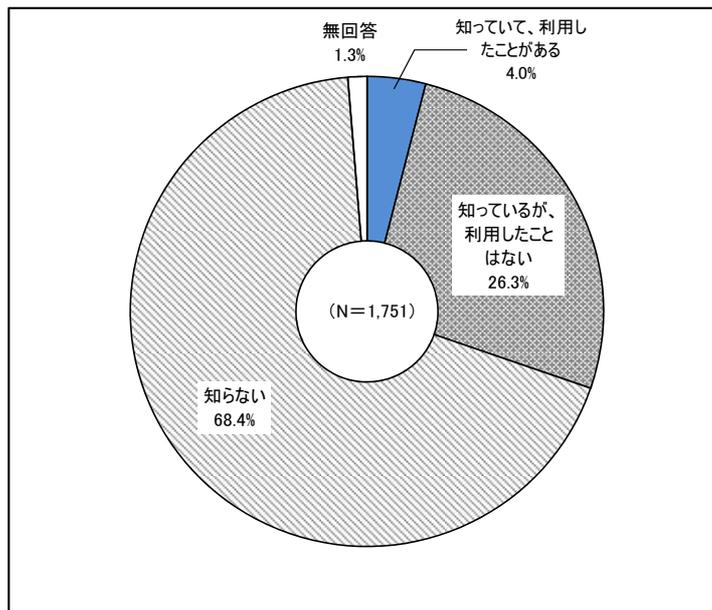
【回答者数=1,751】

1 知っていて、利用したことがある	4.0%(4.2%)
2 知っているが、利用したことはない	26.3%(26.2%)
3 知らない (無回答)	68.4%(68.2%) 1.3%(1.3%)

一般向け救急電話相談事業の利用について、「知らない」68.4%が最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」26.3%、「知っていて、利用したことがある」4.0%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「知らない」68.2%が最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」26.2%、「知っていて、利用したことがある」4.2%となっている。

図表 3-(5)-1 一般向け救急電話相談事業の利用について



(6) 小児・一般向け救急電話相談事業の必要性について

問25 「小児救急電話相談事業」を利用した方、「一般向け救急電話相談事業」を利用した方のいずれも約7割の方は、経過観察など、医療機関への救急受診を一旦回避しています。このことで、患者やその家族、救急医療機関の負担軽減が図られていますが、あなたは、救急医療体制を確保するため、こうした事業を必要だと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

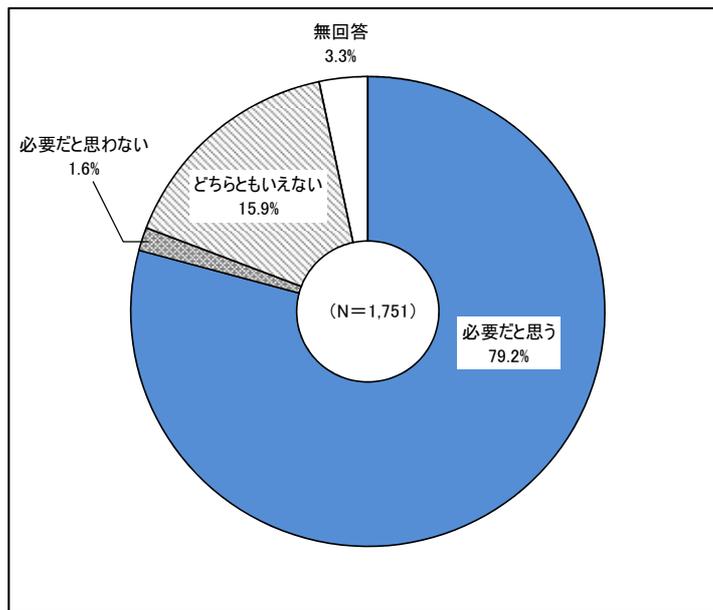
【回答者数=1,751】

1 必要だと思う	79.2%(78.9%)
2 必要だと思わない	1.6%(1.6%)
3 どちらともいえない	15.9%(16.1%)
(無回答)	3.3%(3.4%)

小児・一般向け救急電話相談事業の必要性について、「必要だと思う」79.2%が最も高く、次いで「どちらともいえない」15.9%、「必要だと思わない」1.6%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「必要だと思う」78.9%が最も高く、次いで「どちらともいえない」16.1%、「必要だと思わない」1.6%となっている。

図表 3-(6)-1 小児・一般向け救急電話相談事業の必要性について



(7)小児・一般向け救急電話相談事業の今後の利用意向について

問26 今後、急病などで医療機関を受診するかどうか迷った場合、「小児救急電話相談事業」や「一般向け救急電話相談事業」を利用しますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

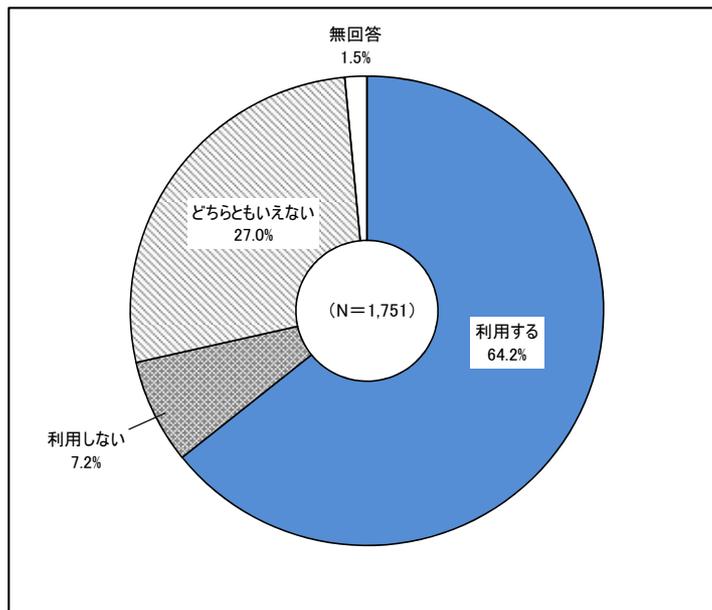
【回答者数=1,751】

1 利用する	64.2%(64.1%)
2 利用しない	7.2%(7.1%)
3 どちらともいえない (無回答)	27.0%(27.2%) 1.5%(1.6%)

小児・一般向け救急電話相談事業の今後の利用意向について、「利用する」64.2%が最も高く、次いで「どちらともいえない」27.0%、「利用しない」7.2%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「利用する」64.1%が最も高く、次いで「どちらともいえない」27.2%、「利用しない」7.1%となっている。

図表 3-(7)-1 小児・一般向け救急電話相談事業の今後の利用意向について



(8) 普及啓発に効果的な広報媒体について

問27 「小児救急電話相談事業」や「一般向け救急電話相談事業」については、毎年度、チラシやカードを配布し、今年度はJR高松駅などにポスターを掲示して普及啓発に努めています。効果的だと思う広報媒体について、次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】※回答数の多い順に並び替え

1	テレビ	65.2%(65.0%)
2	新聞	44.0%(43.5%)
3	チラシ・ポスター	42.8%(42.0%)
4	広報誌・雑誌	34.5%(33.4%)
5	ホームページ	23.9%(23.4%)
6	SNS（フェイスブック、ツイッター、インスタグラムなど）	19.6%(20.8%)
7	インターネット広告（ユーチューブの広告も含む）	15.5%(16.2%)
8	ラジオ	9.4%(9.1%)
9	イベント	7.1%(7.2%)
10	インフルエンサー（パワーブロガー、ユーチューバーなど）	5.1%(5.8%)
11	プロモーション動画（ユーチューブ掲載、DVD制作など）	2.9%(2.9%)
12	メールマガジン	1.0%(0.9%)
13	その他（具体的に：_____）	2.4%(2.5%)
	（無回答）	2.5%(2.6%)

普及啓発に効果的な広報媒体について、「テレビ」65.2%が最も高く、次いで「新聞」44.0%、「チラシ・ポスター」42.8%、「広報誌・雑誌」34.5%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「テレビ」65.0%が最も高く、次いで「新聞」43.5%、「チラシ・ポスター」42.0%、「広報誌・雑誌」33.4%などとなっている。

図表 3-(8)-1 普及啓発に効果的な広報媒体について

		回答数
全体	100.0	1,751 人
(1) テレビ	65.2	1,141 人
(2) 新聞	44.0	771 人
(3) チラシ・ポスター	42.8	750 人
(4) 広報誌・雑誌	34.5	604 人
(5) ホームページ	23.9	418 人
(6) SNS(フェイスブック、ツイッター、インスタグラムなど)	19.6	344 人
(7) インターネット広告(ユーチューブの広告も含む)	15.5	271 人
(8) ラジオ	9.4	164 人
(9) イベント	7.1	124 人
(10) インフルエンサー(パワーブロガー、ユーチューバーなど)	5.1	90 人
(11) プロモーション動画(ユーチューブ掲載、DVD制作など)	2.9	50 人
(12) メールマガジン	1.0	18 人
(13) その他	2.4	42 人
無回答	2.5	43 人

グラフ単位：(%)

(9)こどもの救急の認知度について

問28 子どもの急な病気などで医療機関を受診するかどうか迷った際に、その判断の目安を提供している「こどもの救急」(<http://www.kodomo-qq.jp/>)を知っていますか。また、あなたやあなたの家族は、「こどもの救急」を利用したことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ ()内の割合はウェイトバックした値

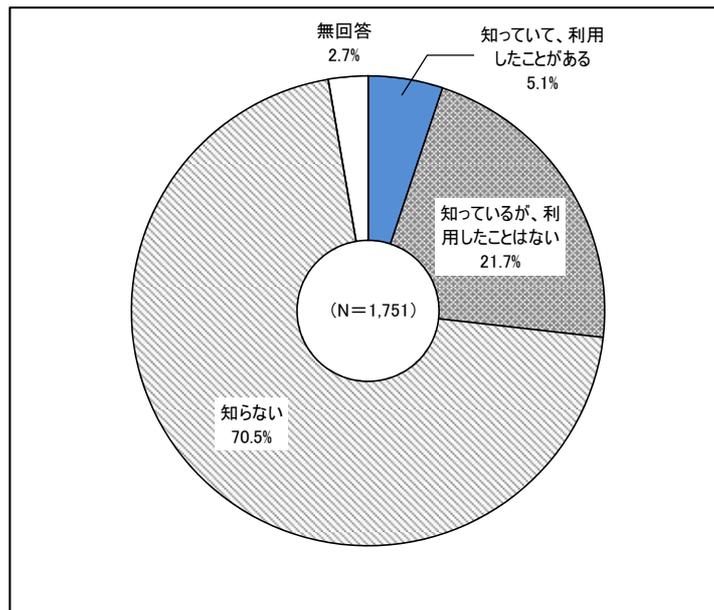
【回答者数=1,751】

1 知っている、利用したことがある	5.1%(5.2%)
2 知っているが、利用したことはない	21.7%(22.2%)
3 知らない (無回答)	70.5%(69.9%) 2.7%(2.8%)

こどもの救急の認知度について、「知らない」70.5%が最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」21.7%、「知っている、利用したことがある」5.1%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「知らない」69.9%が最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」22.2%、「知っている、利用したことがある」5.2%となっている。

図表 3-(9)-1 こどもの救急の認知度について



(10) 医療ネットさぬきの認知度について

問29 香川県では、診療科目や対応できる医療機能などで医療機関を検索したり、休日当番医や歯科の情報を確認したりできる「医療ネットさぬき」(<https://www.qq.pref.kagawa.lg.jp/>)を運営していますが、あなたやあなたの家族は、このことを知っていますか。また、あなたやあなたの家族は、「医療ネットさぬき」を利用したことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

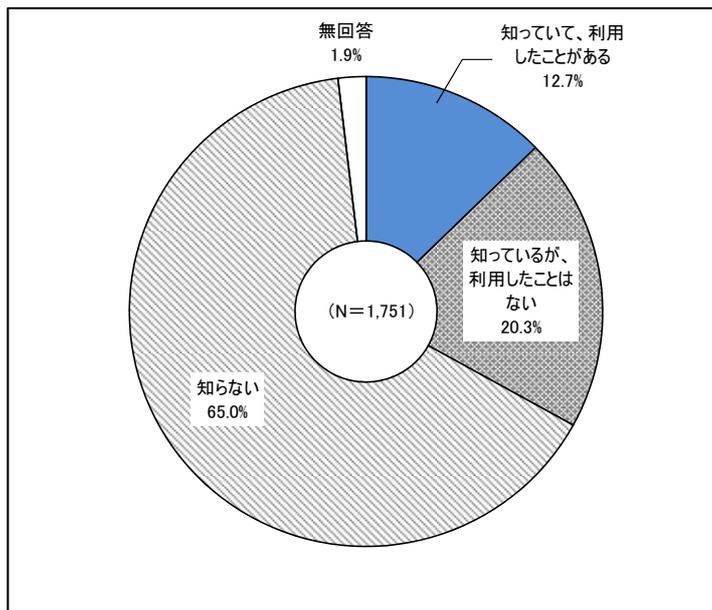
【回答者数=1,751】

1 知っていて、利用したことがある	12.7%(12.8%)
2 知っているが、利用したことはない	20.3%(20.6%)
3 知らない	65.0%(64.7%)
(無回答)	1.9%(2.0%)

医療ネットさぬきの認知度について、「知らない」65.0%が最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」20.3%、「知っていて、利用したことがある」12.7%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「知らない」64.7%が最も高く、次いで「知っているが、利用したことはない」20.6%、「知っていて、利用したことがある」12.8%となっている。

図表 3-(10)-1 医療ネットさぬきの認知度について



4. かがわの自転車条例について

(1) 香川県自転車の安全利用に関する条例の認知度について

問30 あなたは、「香川県自転車の安全利用に関する条例」をご存知ですか。次の中から1つだけ選んでください。

() 内の割合はウェイトバックした値

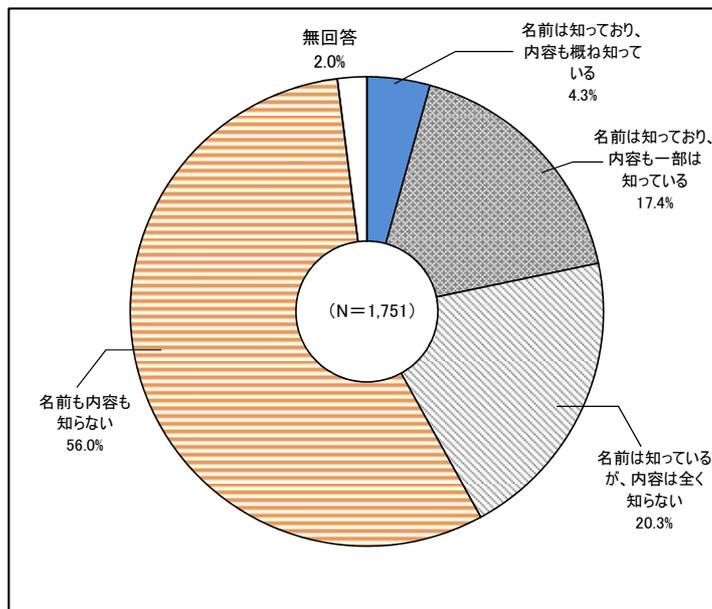
【回答者数=1,751】

1 名前は知っており、内容も概ね知っている	4.3% (4.8%)	} ⇒ 付問6にお進みください
2 名前は知っており、内容も一部は知っている	17.4% (17.5%)	
3 名前は知っているが、内容は全く知らない	20.3% (20.7%)	
4 名前も内容も知らない (無回答)	56.0% (54.9%) 2.0% (2.1%)	

香川県自転車の安全利用に関する条例の認知度について、「名前も内容も知らない」56.0%が最も高く、次いで「名前は知っているが、内容は全く知らない」20.3%、「名前は知っており、内容も一部は知っている」17.4%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「名前も内容も知らない」54.9%が最も高く、次いで「名前は知っているが、内容は全く知らない」20.7%、「名前は知っており、内容も一部は知っている」17.5%などとなっている。

図表 4-(1)-1 香川県自転車の安全利用に関する条例の認知度について



(2) 香川県自転車の安全利用に関する条例を知ったきっかけについて

【問30で「1」～「3」と答えた方にお聞きします】

付問6 あなたは、この条例をどこで知りましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=736】 ※回答数の多い順に並び替え

1	県広報誌「THEかがわ」	36.1% (34.7%)
2	テレビ、ラジオ	36.0% (35.6%)
3	新聞	25.7% (25.7%)
4	チラシ、ポスター、リーフレット	20.0% (19.8%)
5	学校の交通安全教室	13.9% (16.3%)
6	損害保険加入・更新時の対面での説明	8.7% (8.5%)
7	自転車購入時の対面での説明	7.3% (7.3%)
8	県ホームページ	5.0% (5.0%)
9	講演会など	3.5% (3.7%)
10	インターネット (ユーチューブ) の動画広告	1.1% (1.4%)
11	街頭のデジタルサイネージ (動画などを放映する電子看板)	0.8% (0.9%)
12	映画館で、上映前に流れる広告	0.5% (0.5%)
13	その他 (具体的に :)	3.7% (3.6%)
	(無回答)	2.0% (2.1%)

香川県自転車の安全利用に関する条例を知ったきっかけについて、「県広報誌「THEかがわ」」36.1%が最も高く、次いで「テレビ、ラジオ」36.0%、「新聞」25.7%、「チラシ、ポスター、リーフレット」20.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「テレビ、ラジオ」35.6%が最も高く、次いで「県広報誌「THEかがわ」」34.7%、「新聞」25.7%、「チラシ、ポスター、リーフレット」19.8%などとなっている。

図表 4-(2)-1 香川県自転車の安全利用に関する条例を知ったきっかけについて

		回答数
全体	100.0	736 人
(1) 県広報誌「THEかがわ」	36.1	266 人
(2) テレビ、ラジオ	36.0	265 人
(3) 新聞	25.7	189 人
(4) チラシ、ポスター、リーフレット	20.0	147 人
(5) 学校の交通安全教室	13.9	102 人
(6) 損害保険加入・更新時の対面での説明	8.7	64 人
(7) 自転車購入時の対面での説明	7.3	54 人
(8) 県ホームページ	5.0	37 人
(9) 講演会など	3.5	26 人
(10) インターネット(ユーチューブ)の動画広告	1.1	8 人
(11) 街頭のデジタルサイネージ(動画などを放映する電子看板)	0.8	6 人
(12) 映画館で、上映前に流れる広告	0.5	4 人
(13) その他	3.7	27 人
無回答	2.0	15 人

グラフ単位：(%)

(3) 自転車の利用頻度について

問31 あなたは、どのくらいの頻度で自転車を利用しますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

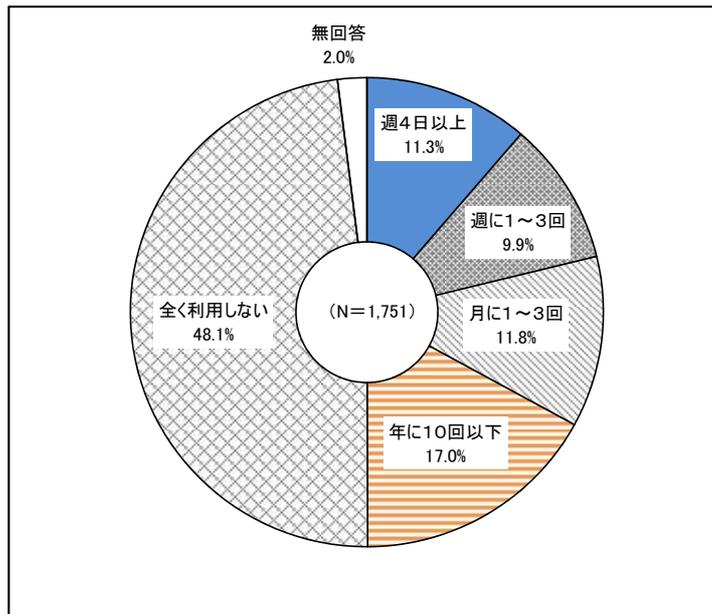
【回答者数=1,751】

1 週4日以上	11.3%(11.5%)	
2 週に1～3回	9.9%(10.7%)	
3 月に1～3回	11.8%(11.6%)	
4 年に10回以下	17.0%(16.6%)	
5 全く利用しない (無回答)	48.1%(47.5%)	⇒問36にお進みください
	2.0%(2.0%)	

自転車の利用頻度について、「全く利用しない」48.1%が最も高く、次いで「年に10回以下」17.0%、「月に1～3回」11.8%、「週4日以上」11.3%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「全く利用しない」47.5%が最も高く、次いで「年に10回以下」16.6%、「月に1～3回」11.6%、「週4日以上」11.5%などとなっている。

図表 4-(3)-1 自転車の利用頻度について



(4) 自転車の点検整備の実施について

問32 この条例では、自転車の点検整備が利用者などの義務となっています。あなたは、ご自分の利用する自転車のタイヤ、ブレーキ、チェーンなどが安全な状態であるかを点検し、必要に応じて整備を行うようにしていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=909】※回答数の多い順に並び替え

- | | | | |
|---|--------------------------------------|--------------|-------------------|
| 1 | 点検整備は行っていない | 38.6%(37.9%) | ⇒ 付問7に
お進みください |
| 2 | 簡易な点検整備を、自転車を利用する日ごとに自分で行っている | 32.6%(32.7%) | |
| 3 | 詳細な点検整備を、定期的(概ね1年に1回程度)に自分で行っている | 18.3%(17.8%) | |
| 4 | 詳細な点検整備を、定期的(概ね1年に1回程度)に自転車販売店でやっている | 9.6%(10.9%) | |
| | (無回答) | 4.4%(4.4%) | |

自転車の点検整備の実施について、「点検整備は行っていない」38.6%が最も高く、次いで「簡易な点検整備を、自転車を利用する日ごとに自分で行っている」32.6%、「詳細な点検整備を、定期的(概ね1年に1回程度)に自分で行っている」18.3%、「詳細な点検整備を、定期的(概ね1年に1回程度)に自転車販売店でやっている」9.6%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「点検整備は行っていない」37.9%が最も高く、次いで「簡易な点検整備を、自転車を利用する日ごとに自分で行っている」32.7%、「詳細な点検整備を、定期的(概ね1年に1回程度)に自分で行っている」17.8%、「詳細な点検整備を、定期的(概ね1年に1回程度)に自転車販売店でやっている」10.9%となっている。

図表 4-(4)-1 自転車の点検整備の実施について

		回答数
全体	100.0	909人
(1) 点検整備は行っていない	38.6	351人
(2) 簡易な点検整備を、自転車を利用する日ごとに自分で行っている	32.6	296人
(3) 詳細な点検整備を、定期的(概ね1年に1回程度)に自分で行っている	18.3	166人
(4) 詳細な点検整備を、定期的(概ね1年に1回程度)に自転車販売店でやっている	9.6	87人
無回答	4.4	40人

グラフ単位：(%)

(5) 自転車の点検整備を行わない理由について

【問 32 で「1」と答えた方にお聞きします】

付問 7 点検整備を行わない理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=351】 ※回答数の多い順に並び替え

1	点検をしなくても、故障してから整備を行えば十分だと思うから	44.2%(44.1%)
2	点検整備を行わなければならないことを知らなかったから	39.6%(39.3%)
3	これまで自転車が故障したことがないから	25.6%(26.3%)
4	面倒だから	15.7%(16.5%)
5	点検整備の費用が高いから	5.4%(5.3%)
6	その他 (具体的に：)	10.0%(9.8%)
	(無回答)	1.1%(1.1%)

自転車の点検整備を行わない理由について、「点検をしなくても、故障してから整備を行えば十分だと思うから」44.2%が最も高く、次いで「点検整備を行わなければならないことを知らなかったから」39.6%、「これまで自転車が故障したことがないから」25.6%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「点検をしなくても、故障してから整備を行えば十分だと思うから」44.1%が最も高く、次いで「点検整備を行わなければならないことを知らなかったから」39.3%、「これまで自転車が故障したことがないから」26.3%などとなっている。

図表 4-(5)-1 自転車の点検整備を行わない理由について

		回答数
全体	100.0	351 人
(1) 点検をしなくても、故障してから整備を行えば十分だと思うから	44.2	155 人
(2) 点検整備を行わなければならないことを知らなかったから	39.6	139 人
(3) これまで自転車が故障したことがないから	25.6	90 人
(4) 面倒だから	15.7	55 人
(5) 点検整備の費用が高いから	5.4	19 人
(6) その他	10.0	35 人
無回答	1.1	4 人

グラフ単位：(%)

(6) 自転車運転中のヘルメット着用について

問33 あなたは、自転車運転中、ヘルメットを着用していますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

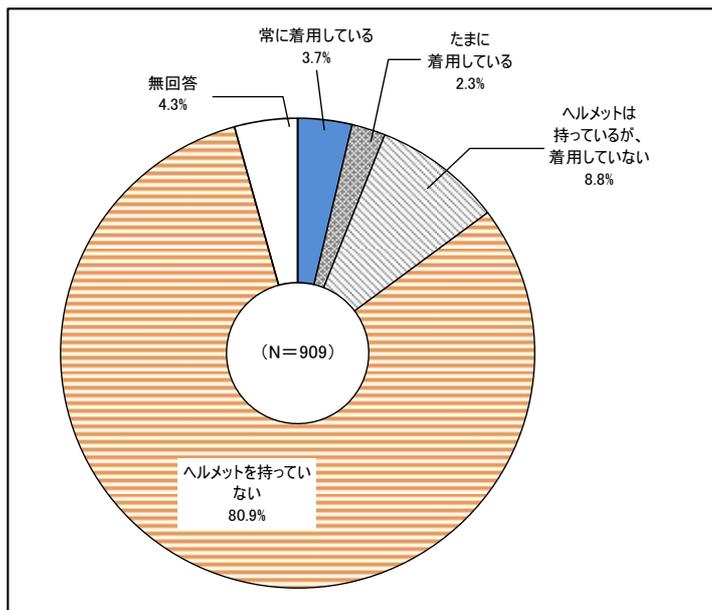
【回答者数=909】

1 常に着用している	3.7% (4.1%)	} ⇒ 付問8に お進みください
2 たまに着用している	2.3% (2.5%)	
3 ヘルメットは持っているが、着用していない	8.8% (9.1%)	
4 ヘルメットを持っていない (無回答)	80.9% (80.1%) 4.3% (4.3%)	

自転車運転中のヘルメット着用について、「ヘルメットを持っていない」80.9%が最も高く、次いで「ヘルメットは持っているが、着用していない」8.8%、「常に着用している」3.7%、「たまに着用している」2.3%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ヘルメットを持っていない」80.1%が最も高く、次いで「ヘルメットは持っているが、着用していない」9.1%、「常に着用している」4.1%、「たまに着用している」2.5%となっている。

図表 4-(6)-1 自転車運転中のヘルメット着用について



(7)ヘルメットを着用しない理由について

【問33で「2」～「4」と答えた方にお聞きします】

付問8 ヘルメットを着用しない理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=836】※回答数の多い順に並び替え

1 ヘルメットを持っていないから	71.9%(70.9%)
2 面倒だから	26.6%(26.4%)
3 他の人も着用していないから	26.2%(27.2%)
4 頭が蒸れて暑いから	11.6%(11.7%)
5 髪型が崩れるから	10.2%(11.0%)
6 格好悪いと思うから	9.1%(9.8%)
7 ヘルメットの保管場所に困るから	4.3%(4.8%)
8 その他(具体的に：_____)	10.3%(10.2%)
(無回答)	0.8%(0.9%)

ヘルメットを着用しない理由について、「ヘルメットを持っていないから」71.9%が最も高く、次いで「面倒だから」26.6%、「他の人も着用していないから」26.2%、「頭が蒸れて暑いから」11.6%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ヘルメットを持っていないから」70.9%が最も高く、次いで「他の人も着用していないから」27.2%、「面倒だから」26.4%、「頭が蒸れて暑いから」11.7%などとなっている。

図表 4-(7)-1 ヘルメットを着用しない理由について

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	836 人
(1) ヘルメットを持っていないから	71.9	601 人
(2) 面倒だから	26.6	222 人
(3) 他の人も着用していないから	26.2	219 人
(4) 頭が蒸れて暑いから	11.6	97 人
(5) 髪型が崩れるから	10.2	85 人
(6) 格好悪いと思うから	9.1	76 人
(7) ヘルメットの保管場所に困るから	4.3	36 人
(8) その他	10.3	86 人
無回答	0.8	7 人

グラフ単位：(%)

(8) 自転車保険の認知度について

問34 自転車事故で相手にけがをさせた場合、相手の損害を賠償する保険などには、さまざまな種類があることをご存知ですか。次の中から知っているものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=909】※回答数の多い順に並び替え

1 「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済	53.1%(52.0%)
2 自転車事故を補償する「自転車利用者向け保険」	46.9%(47.6%)
3 自転車事故も補償する、職場で加入する団体保険またはPTAや学校が窓口となる団体保険（「小・中学生総合保障制度」、「高校生総合保障制度」、「自転車総合保障制度」）	40.3%(39.4%)
4 自転車の車体に付帯した「TSマーク付帯保険」	31.0%(29.8%)
5 いずれも知らない (無回答)	13.8%(14.4%) 5.2%(5.2%)

自転車保険の認知度について、「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済 53.1%が最も高く、次いで「自転車事故を補償する「自転車利用者向け保険」 46.9%、「自転車事故も補償する、職場で加入する団体保険またはPTAや学校が窓口となる団体保険（「小・中学生総合保障制度」、「高校生総合保障制度」、「自転車総合保障制度」）」 40.3%、「自転車の車体に付帯した「TSマーク付帯保険」 31.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済 52.0%が最も高く、次いで「自転車事故を補償する「自転車利用者向け保険」 47.6%、「自転車事故も補償する、職場で加入する団体保険またはPTAや学校が窓口となる団体保険（「小・中学生総合保障制度」、「高校生総合保障制度」、「自転車総合保障制度」）」 39.4%、「自転車の車体に付帯した「TSマーク付帯保険」 29.8%などとなっている。

図表 4-(8)-1 自転車保険の認知度について

	割合	回答数
全体	100.0	909人
(1) 「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済	53.1	483人
(2) 自転車事故を補償する「自転車利用者向け保険」	46.9	426人
(3) 自転車事故も補償する、職場で加入する団体保険またはPTAや学校が窓口となる団体保険（「小・中学生総合保障制度」、「高校生総合保障制度」、「自転車総合保障制度」）	40.3	366人
(4) 自転車の車体に付帯した「TSマーク付帯保険」	31.0	282人
(5) いずれも知らない	13.8	125人
無回答	5.2	47人

グラフ単位：(%)

(9) 自転車保険の加入について

問35 あなたは、自転車事故で相手にけがをさせた場合、相手の損害を賠償する保険などに加入していますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=909】※回答数の多い順に並び替え

- | | |
|--|--------------|
| 1 「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済に加入している | 34.7%(33.6%) |
| 2 自転車の事故を補償する保険などには、何も加入していない | 28.1%(27.6%) |
| 3 自転車事故を補償する「自転車利用者向け保険」に加入している | 11.1%(12.2%) |
| 4 自転車の車体に付帯した「TSマーク付帯保険」に加入している | 11.1%(11.1%) |
| 5 自転車事故も補償する、職場で加入する団体保険またはPTAや学校が窓口となる団体保険のいずれかに加入している | 5.1%(5.9%) |
| 6 上記以外の自転車事故を補償する保険などに加入している | 2.6%(2.7%) |
| 7 わからない | 14.9%(15.1%) |
| (無回答) | 5.4%(5.6%) |
- ⇒ 付問9にお進みください

自転車保険の加入について、「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済に加入している」34.7%が最も高く、次いで「自転車の事故を補償する保険などには、何も加入していない」28.1%、「わからない」14.9%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済に加入している」33.6%が最も高く、次いで「自転車の事故を補償する保険などには、何も加入していない」27.6%、「わからない」15.1%、「自転車事故を補償する「自転車利用者向け保険」に加入している」12.2%などとなっている。

図表 4-(9)-1 自転車保険の加入について

	割合	回答数
全体	100.0	909人
(1) 「自動車保険」、「火災保険」、「傷害保険」などに「自転車事故も補償する特約」が付帯されている保険や共済に加入している	34.7	315人
(2) 自転車の事故を補償する保険などには、何も加入していない	28.1	255人
(3) 自転車事故を補償する「自転車利用者向け保険」に加入している	11.1	101人
(4) 自転車の車体に付帯した「TSマーク付帯保険」に加入している	11.1	101人
(5) 自転車事故も補償する、職場で加入する団体保険またはPTAや学校が窓口となる団体保険のいずれかに加入している	5.1	46人
(6) 上記以外の自転車事故を補償する保険などに加入している	2.6	24人
(7) わからない	14.9	135人
無回答	5.4	49人

グラフ単位：(%)

(10) 自転車保険に加入していない理由について

【問35で「2」と答えた方にお聞きします】

付問9 自転車事故を補償する保険に加入していない理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=255】※回答数の多い順に並び替え

1 加入のきっかけがなかったから	54.9%(55.4%)
2 保険加入に努めなければならないことを知らなかったから	29.8%(29.4%)
3 自転車に乗る時、十分注意をしているので、自転車事故の加害者になることはないと思うから	21.6%(20.5%)
4 保険加入手続きが面倒だから	11.8%(11.6%)
5 自転車事故を補償する保険があることを知らなかったから	10.6%(10.9%)
6 保険料が高いから	5.5%(5.5%)
7 自転車事故の加害者になっても、被害者への損害賠償金は自分で支払えると思うから	2.4%(2.4%)
8 その他(具体的に：)	23.9%(23.9%)
(無回答)	0.4%(0.5%)

自転車保険に加入していない理由について、「加入のきっかけがなかったから」54.9%が最も高く、次いで「保険加入に努めなければならないことを知らなかったから」29.8%、「その他」23.9%、「自転車に乗る時、十分注意をしているので、自転車事故の加害者になることはないと思うから」21.6%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「加入のきっかけがなかったから」55.4%が最も高く、次いで「保険加入に努めなければならないことを知らなかったから」29.4%、「その他」23.9%、「自転車に乗る時、十分注意をしているので、自転車事故の加害者になることはないと思うから」20.5%などとなっている。

図表 4-(10)-1 自転車保険に加入していない理由について

	割合	回答数
全体	100.0	255 人
(1) 加入のきっかけがなかったから	54.9	140 人
(2) 保険加入に努めなければならないことを知らなかったから	29.8	76 人
(3) 自転車に乗る時、十分注意をしているので、自転車事故の加害者になることはないと思うから	21.6	55 人
(4) 保険加入手続きが面倒だから	11.8	30 人
(5) 自転車事故を補償する保険があることを知らなかったから	10.6	27 人
(6) 保険料が高いから	5.5	14 人
(7) 自転車事故の加害者になっても、被害者への損害賠償金は自分で支払えると思うから	2.4	6 人
(8) その他	23.9	61 人
無回答	0.4	1 人

グラフ単位：(%)

5. ボランティア・NPO活動について

(1) ボランティアやNPO活動の関心度について

問36 あなたは、ボランティアやNPO活動にどの程度関心がありますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

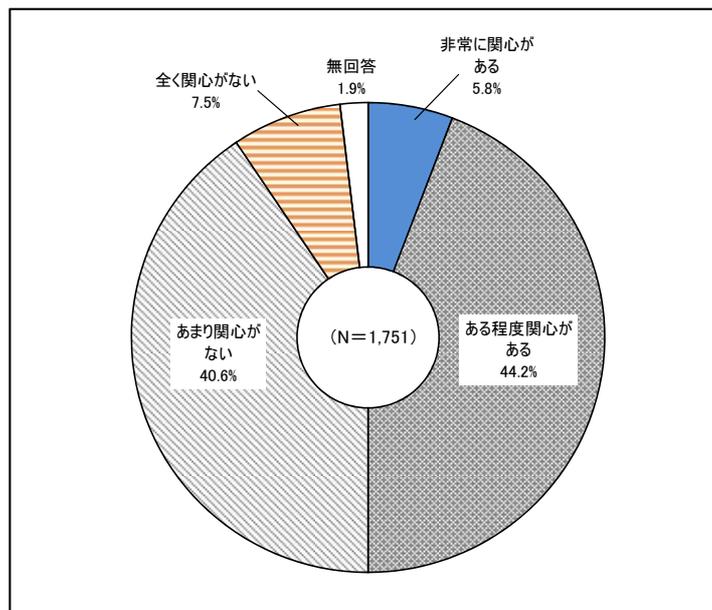
【回答者数=1,751】

1 非常に関心がある	5.8% (6.1%)
2 ある程度関心がある	44.2% (44.3%)
3 あまり関心がない	40.6% (40.0%)
4 全く関心がない (無回答)	7.5% (7.6%) 1.9% (2.0%)

ボランティアやNPO活動の関心度について、「ある程度関心がある」44.2%が最も高く、次いで「あまり関心がない」40.6%、「全く関心がない」7.5%、「非常に関心がある」5.8%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ある程度関心がある」44.3%が最も高く、次いで「あまり関心がない」40.0%、「全く関心がない」7.6%、「非常に関心がある」6.1%となっている。

図表 5-(1)-1 ボランティアやNPO活動の関心度について



(2) ボランティアやNPO活動への参加について

問37 あなたは、これまでにボランティアやNPO活動をしたことがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

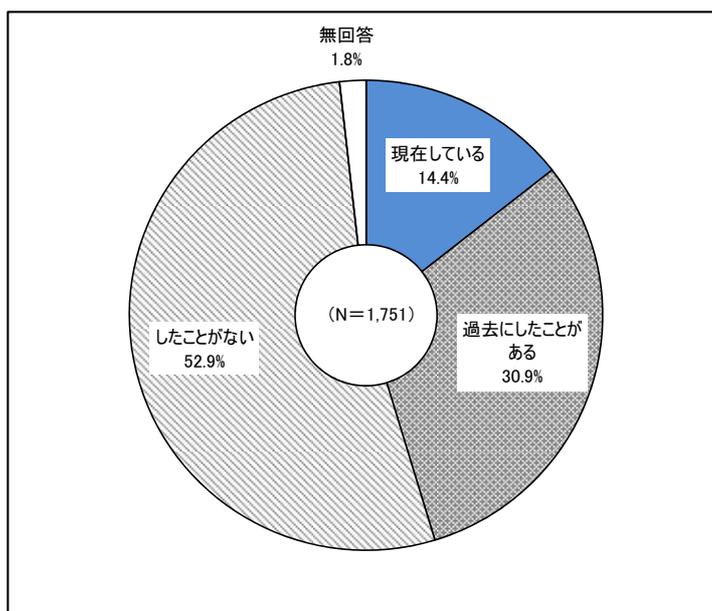
【回答者数=1,751】

- | | | |
|--------------|--------------|--------------------------|
| 1 現在している | 14.4%(14.1%) | ⇒付問 10 にお進みください |
| 2 過去にしたことがある | 30.9%(32.0%) | ⇒付問 10 および付問 11 にお進みください |
| 3 したことがない | 52.9%(52.1%) | ⇒付問 11 および付問 12 にお進みください |
| (無回答) | 1.8%(1.8%) | |

ボランティアやNPO活動への参加について、「したことがない」52.9%が最も高く、次いで「過去にしたことがある」30.9%、「現在している」14.4%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「したことがない」52.1%が最も高く、次いで「過去にしたことがある」32.0%、「現在している」14.1%となっている。

図表 5-(2)-1 ボランティアやNPO活動への参加について



(3) これまでにしたことがあるボランティアやNPO活動について

【問37で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問10 あなたがこれまでにしたことがあるボランティアやNPO活動について、あてはまるものすべてを選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=793】※回答数の多い順に並び替え

1	まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）	59.9% (58.5%)
2	環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）	52.5% (52.5%)
3	保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）	37.5% (36.8%)
4	学術・文化・芸術・スポーツ関係（PTA活動、美術館・図書館などでのボランティア活動、スポーツ教室の指導など）	34.6% (33.2%)
5	子どもの健全育成関係（子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など）	29.4% (28.0%)
6	地域安全関係（交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など）	25.6% (24.8%)
7	災害救援関係（災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など）	17.3% (17.8%)
8	社会教育関係（生涯学習、生きがいつくり支援活動など）	9.1% (8.8%)
9	国際交流・協力関係（通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など）	6.8% (7.2%)
10	観光の振興関係（観光ボランティアなど）	4.0% (4.3%)
11	農山漁村の振興関係（農作業の援助など）	3.9% (3.9%)
12	ボランティアやNPO活動支援関係（ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など）	3.3% (3.9%)
13	男女共同参画関係（女性の自立支援活動、DV防止活動など）	2.4% (2.7%)
14	経済活動の活性化関係（起業の支援、商店街の活性化活動など）	2.4% (2.8%)
15	職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係（就職支援、障害者の雇用支援活動など）	2.0% (2.3%)
16	人権擁護・平和の推進関係（家庭内暴力や差別問題解消活動など）	1.9% (2.0%)
17	消費者保護関係（消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など）	1.1% (1.3%)
18	情報化社会の発展関係（パソコン技能やIT（情報通信技術）の普及活動など）	0.6% (0.7%)
19	科学技術の振興関係（科学技術の普及活動など）	0.4% (0.3%)
20	その他（具体的に：） （無回答）	3.2% (3.3%) 1.1% (1.1%)

これまでにしたことがあるボランティアやNPO活動について、「まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）」59.9%が最も高く、次いで、「環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）」52.5%、「保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）」37.5%、「学術・文化・芸術・スポーツ関係（PTA活動、美術館・図書館などでのボランティア活動、スポーツ教室の指導など）」34.6%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「まちづくり関係（地域おこし活動、自治会・町内会の活動など）」58.5%が最も高く、次いで「環境保全関係（道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など）」52.5%、「保健・医療・福祉関係（献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など）」36.8%、「学術・文化・芸術・スポーツ関係（PTA活動、美術館・図書館などでのボランティア活動、スポーツ教室の指導など）」33.2%などとなっている。

図表 5-(3)-1 これまでにしたことがあるボランティアやNPO活動について

		回答数
	全体	100.0
		793 人
(1)	まちづくり関係(地域おこし活動、自治会・町内会の活動など)	59.9
		475 人
(2)	環境保全関係(道路のゴミ拾いなどの環境美化活動、花いっぱい運動などの緑化活動、緑の募金など)	52.5
		416 人
(3)	保健・医療・福祉関係(献血、介護ボランティアなどの高齢者支援活動、手話・点訳などの障害者支援活動など)	37.5
		297 人
(4)	学術・文化・芸術・スポーツ関係(PTA活動、美術館・図書館などでのボランティア活動、スポーツ教室の指導など)	34.6
		274 人
(5)	子どもの健全育成関係(子ども会、子育てサロンや乳幼児の世話などの子育て支援、青少年非行防止活動など)	29.4
		233 人
(6)	地域安全関係(交通安全・防犯活動、更生支援活動、自主防災活動など)	25.6
		203 人
(7)	災害救援関係(災害時のボランティア活動、救援物資の提供、募金など)	17.3
		137 人
(8)	社会教育関係(生涯学習、生きがいづくり支援活動など)	9.1
		72 人
(9)	国際交流・協力関係(通訳、留学生支援、海外支援活動、募金など)	6.8
		54 人
(10)	観光の振興関係(観光ボランティアなど)	4.0
		32 人
(11)	農山漁村の振興関係(農作業の援助など)	3.9
		31 人
(12)	ボランティアやNPO活動支援関係(ボランティア・NPOに関する相談や活動紹介など)	3.3
		26 人
(13)	男女共同参画関係(女性の自立支援活動、DV防止活動など)	2.4
		19 人
(14)	経済活動の活性化関係(起業の支援、商店街の活性化活動など)	2.4
		19 人
(15)	職業能力の開発、雇用機会の拡充・支援関係(就職支援、障害者の雇用支援活動など)	2.0
		16 人
(16)	人権擁護・平和の推進関係(家庭内暴力や差別問題解消活動など)	1.9
		15 人
(17)	消費者保護関係(消費者教育・学習、商品知識や消費者被害防止の普及活動など)	1.1
		9 人
(18)	情報化社会の発展関係(パソコン技能やIT(情報通信技術)の普及活動など)	0.6
		5 人
(19)	科学技術の振興関係(科学技術の普及活動など)	0.4
		3 人
(20)	その他	3.2
		25 人
	無回答	1.1
		9 人

グラフ単位：(%)

(4) ボランティアやNPO活動の今後の意向について

【問37で「2」または「3」と答えた方にお聞きします】

付問11 あなたは、今後、ボランティアやNPO活動をしたいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ ()内の割合はウェイトバックした値

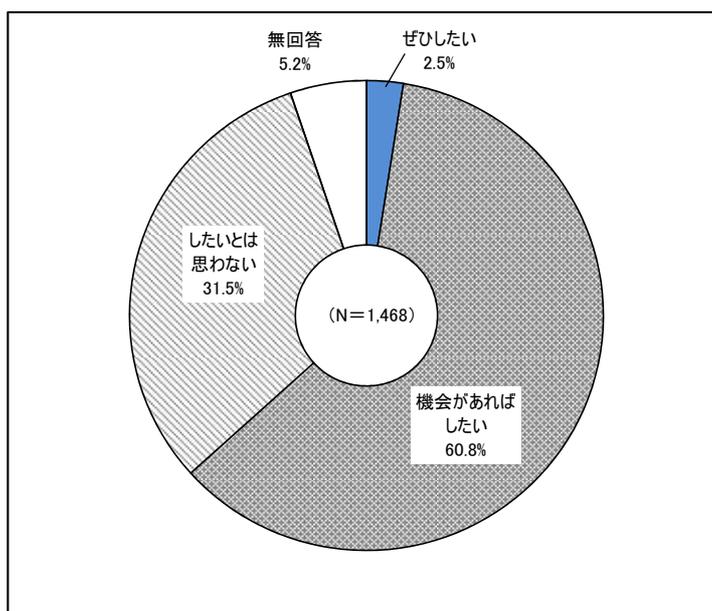
【回答者数=1,468】

1 ぜひしたい	2.5%(2.6%)
2 機会があればしたい	60.8%(60.7%)
3 したいとは思わない	31.5%(31.4%)
(無回答)	5.2%(5.2%)

ボランティアやNPO活動の今後の意向について、「機会があればしたい」60.8%が最も高く、次いで「したいとは思わない」31.5%、「ぜひしたい」2.5%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「機会があればしたい」60.7%が最も高く、次いで「したいとは思わない」31.4%、「ぜひしたい」2.6%となっている。

図表 5-(4)-1 ボランティアやNPO活動の今後の意向について



(5) ボランティアや NPO 活動をしたことがない理由について

【問 37 で「3」と答えた方にお聞きます】

付問12 あなたがボランティアやNPO活動をしたことがない理由を、次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=927】※回答数の多い順に並び替え

1 時間的な余裕がないから	21.0%(20.3%)
2 きっかけや機会がないから	18.2%(19.0%)
3 体力的に自信がないから	18.1%(18.3%)
4 関心がないから	7.4%(7.4%)
5 活動に必要な情報が得られないから	4.1%(4.3%)
6 一緒に活動する仲間がないから	3.0%(3.1%)
7 その他（具体的に： ）	2.9%(3.1%)
8 特にない	3.1%(3.0%)
(無回答)	22.0%(21.5%)

ボランティアやNPO活動をしたことがない理由について、「時間的な余裕がないから」21.0%が最も高く、次いで「きっかけや機会がないから」18.2%、「体力的に自信がないから」18.1%、「関心がないから」7.4%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「時間的な余裕がないから」20.3%が最も高く、次いで「きっかけや機会がないから」19.0%、「体力的に自信がないから」18.3%、「関心がないから」7.4%などとなっている。

図表 5-(5)-1 ボランティアや NPO 活動をしたことがない理由について

		回答数
全体	100.0	927 人
(1) 時間的な余裕がないから	21.0	195 人
(2) きっかけや機会がないから	18.2	169 人
(3) 体力的に自信がないから	18.1	168 人
(4) 関心がないから	7.4	69 人
(5) 活動に必要な情報が得られないから	4.1	38 人
(6) 一緒に活動する仲間がないから	3.0	28 人
(7) その他	2.9	27 人
(8) 特にない	3.1	29 人
無回答	22.0	204 人

グラフ単位：(%)

6. 県政の重要度と満足度について

県では、平成28年度からの新たな香川づくりの指針として、「新・せとうち田園都市創造計画」※を策定し、「成長する香川」、「信頼・安心の香川」、「笑顔で暮らせる香川」の3つの基本方針のもと、さまざまな施策に取り組んでいます。

この計画を着実に推進し、県民の皆さまのニーズ(要望)に対応した県政を進めるためには、皆さまが「県行政に対して何を求めているのか」、「現在の状況にどのくらい満足しているのか」を知り、それを県政に反映させていくことが重要となります。

そこで、この計画で展開することとしている24の分野を対象に、皆さまが考える重要度と満足度についてお伺いしますので、以下の質問にお答えください。

「重要度」については、今の生活やこれからの生活を送っていく上でどのくらい重要かを、また、「満足度」については、現状にどのくらい満足しているかを、それぞれ5段階で評価してください。

※「新・せとうち田園都市創造計画」

本県の進むべき基本的方向とそれを実現するための方策を明らかにした県政運営の基本指針で、計画期間は平成28年度から令和2年度の5年間です。

この計画では、「せとうち田園都市の新たな創造」を基本目標に掲げ、「成長する香川」、「信頼・安心の香川」、「笑顔で暮らせる香川」の3つの基本方針のもと、人口減少の克服や地域活力の向上につながる効果的な施策に重点的に取り組み、人口の社会増を伴う、魅力ある瀬戸内香川の生活圈域づくりをめざしています。

(1) 成長する香川(重要度)

問38 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「成長する香川」についておたずねします。

「成長する香川」の実現に向けて展開している1～7の分野について、あなたの＜重要度＞を、それぞれ(1)～(5)のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】

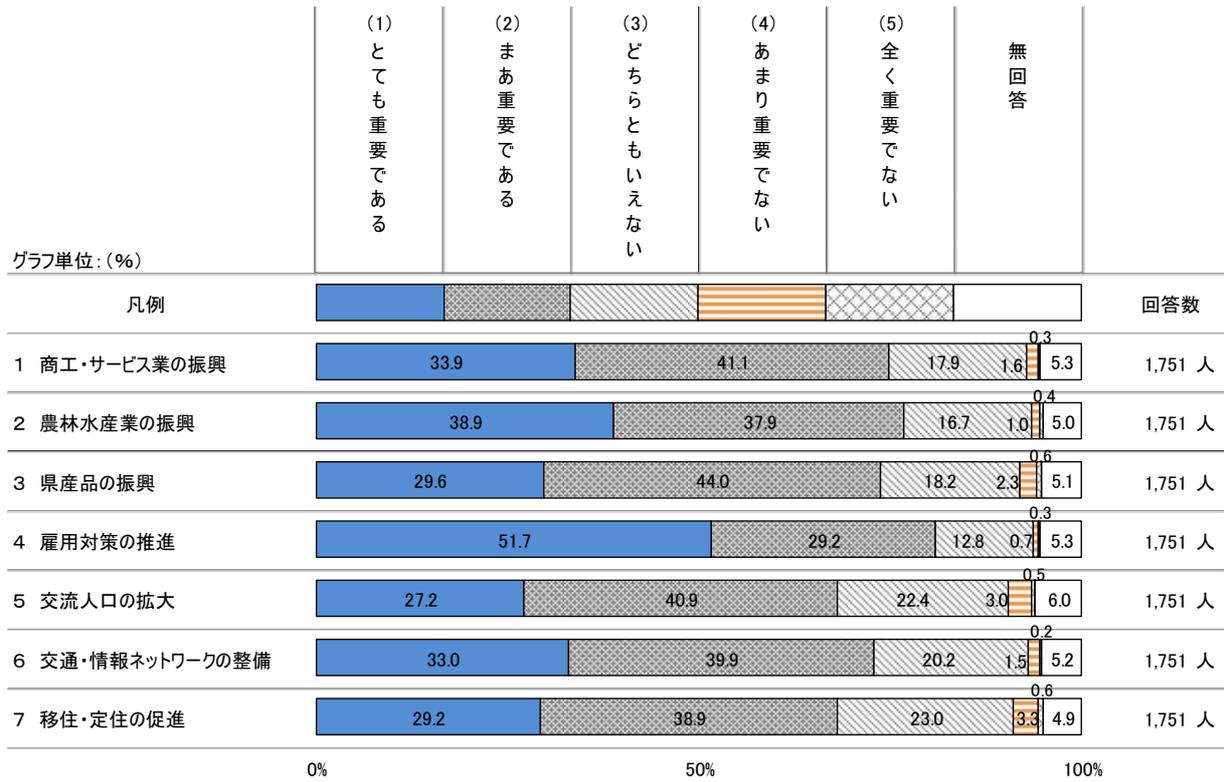
(単位：%)

分 野	重要度					
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答
1 商工・サービス業の振興	33.9 (33.9)	41.1 (40.5)	17.9 (18.2)	1.6 (1.6)	0.3 (0.3)	5.3 (5.5)
2 農林水産業の振興	38.9 (38.5)	37.9 (37.7)	16.7 (16.9)	1.0 (1.3)	0.4 (0.4)	5.0 (5.2)
3 県産品の振興	29.6 (29.5)	44.0 (43.9)	18.2 (18.0)	2.3 (2.5)	0.6 (0.6)	5.1 (5.4)
4 雇用対策の推進	51.7 (51.9)	29.2 (28.7)	12.8 (12.8)	0.7 (0.7)	0.3 (0.2)	5.3 (5.6)
5 交流人口の拡大	27.2 (27.8)	40.9 (40.2)	22.4 (22.3)	3.0 (3.0)	0.5 (0.5)	6.0 (6.2)
6 交通・情報ネットワークの整備	33.0 (33.3)	39.9 (39.5)	20.2 (20.0)	1.5 (1.5)	0.2 (0.2)	5.2 (5.5)
7 移住・定住の促進	29.2 (29.2)	38.9 (38.8)	23.0 (22.6)	3.3 (3.6)	0.6 (0.6)	4.9 (5.2)

「成長する香川」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「雇用対策の推進」80.9%が最も高く、次いで「農林水産業の振興」76.8%、「商工・サービス業の振興」75.0%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【重要である】の割合は、「雇用対策の推進」80.6%が最も高く、次いで「農林水産業の振興」76.2%、「商工・サービス業の振興」74.4%などとなっている。

図表 6-(1) 成長する香川(重要度)



(2) 成長する香川(満足度)

問38 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「成長する香川」についておたずねします。

「成長する香川」の実現に向けて展開している1～7の分野について、あなたの＜満足度＞を、それぞれ(1)～(5)のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】

(単位：%)

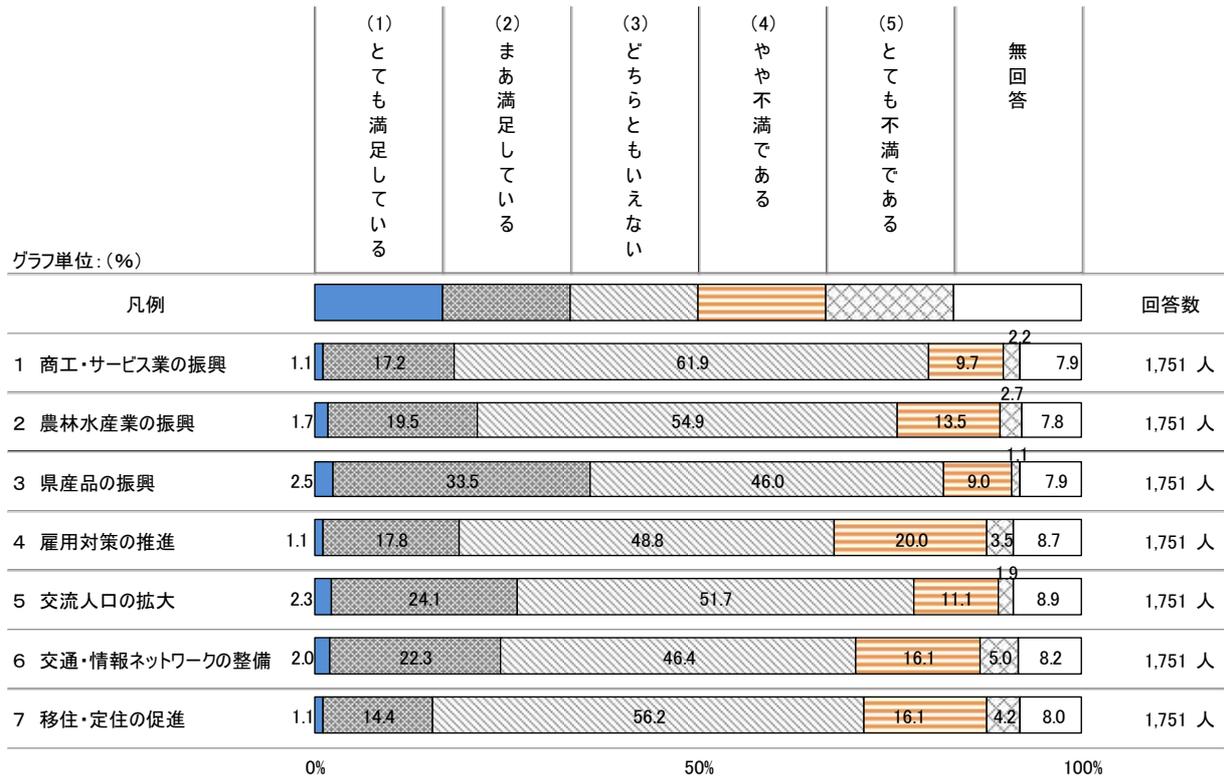
分 野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
1 商工・サービス業の振興	1.1 (1.1)	17.2 (17.8)	61.9 (60.9)	9.7 (9.8)	2.2 (2.2)	7.9 (8.2)
2 農林水産業の振興	1.7 (1.7)	19.5 (20.0)	54.9 (54.7)	13.5 (12.9)	2.7 (2.6)	7.8 (8.0)
3 県産品の振興	2.5 (2.6)	33.5 (33.7)	46.0 (45.4)	9.0 (9.1)	1.1 (1.1)	7.9 (8.1)
4 雇用対策の推進	1.1 (1.1)	17.8 (18.0)	48.8 (48.3)	20.0 (20.0)	3.5 (3.5)	8.7 (9.0)
5 交流人口の拡大	2.3 (2.5)	24.1 (24.6)	51.7 (50.7)	11.1 (11.0)	1.9 (2.1)	8.9 (9.1)
6 交通・情報ネットワークの整備	2.0 (2.0)	22.3 (23.1)	46.4 (45.3)	16.1 (15.8)	5.0 (5.3)	8.2 (8.5)
7 移住・定住の促進	1.1 (1.2)	14.4 (14.8)	56.2 (55.1)	16.1 (16.3)	4.2 (4.3)	8.0 (8.3)

「成長する香川」の満足度について、「商工・サービス業の振興」、「農林水産業の振興」、「県産品の振興」、「交流人口の拡大」と「交通・情報ネットワークの整備」では、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っている。

一方で、「雇用対策の推進」と「移住・定住の促進」では、【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

ウェイトバック集計した値においても、同じ結果となっている。

図表 6-(2) 成長する香川(満足度)



(3)信頼・安心の香川(重要度)

問39 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「信頼・安心の香川」についておたずねします。
 「信頼・安心の香川」の実現に向けて展開している8～15の分野について、あなたの＜重要度＞を、それぞれ(1)～(5)のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】

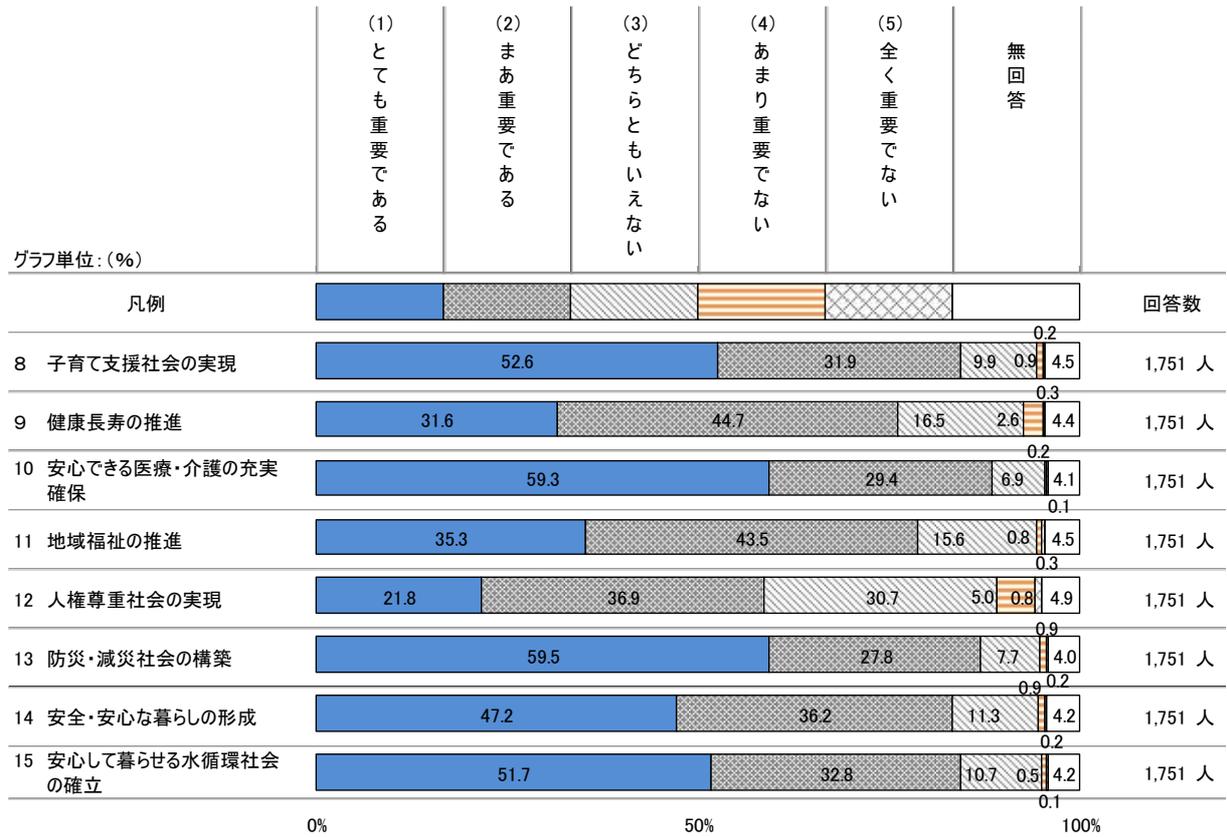
(単位：%)

分 野	重要度					無回答
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	
8 子育て支援社会の実現	52.6 (53.0)	31.9 (31.4)	9.9 (10.0)	0.9 (0.8)	0.2 (0.1)	4.5 (4.7)
9 健康長寿の推進	31.6 (31.4)	44.7 (44.5)	16.5 (16.4)	2.6 (2.8)	0.3 (0.3)	4.4 (4.7)
10 安心できる医療・介護の充実確保	59.3 (59.2)	29.4 (29.3)	6.9 (6.9)	0.2 (0.3)	0.1 (0.0)	4.1 (4.3)
11 地域福祉の推進	35.3 (34.9)	43.5 (43.4)	15.6 (15.8)	0.8 (1.0)	0.3 (0.3)	4.5 (4.7)
12 人権尊重社会の実現	21.8 (22.1)	36.9 (36.6)	30.7 (30.2)	5.0 (5.3)	0.8 (0.7)	4.9 (5.1)
13 防災・減災社会の構築	59.5 (59.6)	27.8 (27.5)	7.7 (7.7)	0.9 (0.9)	0.2 (0.2)	4.0 (4.2)
14 安全・安心な暮らしの形成	47.2 (47.3)	36.2 (35.8)	11.3 (11.2)	0.9 (1.1)	0.2 (0.2)	4.2 (4.4)
15 安心して暮らせる水循環社会の確立	51.7 (51.4)	32.8 (32.5)	10.7 (11.0)	0.5 (0.7)	0.1 (0.0)	4.2 (4.4)

「信頼・安心の香川」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「安心できる医療・介護の充実確保」88.7%が最も高く、次いで「防災・減災社会の構築」87.3%、「子育て支援社会の実現」と「安心して暮らせる水循環社会の確立」が同率の84.5%などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、【重要である】の割合は、「安心できる医療・介護の充実確保」88.5%が最も高く、次いで「防災・減災社会の構築」87.1%、「子育て支援社会の実現」84.4%などとなっている。

図表 6-(3) 信頼・安心の香川(重要度)



(4)信頼・安心の香川(満足度)

問39 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「信頼・安心の香川」についておたずねします。
 「信頼・安心の香川」の実現に向けて展開している8～15の分野について、あなたの〈満足度〉を、
 それぞれ(1)～(5)のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】

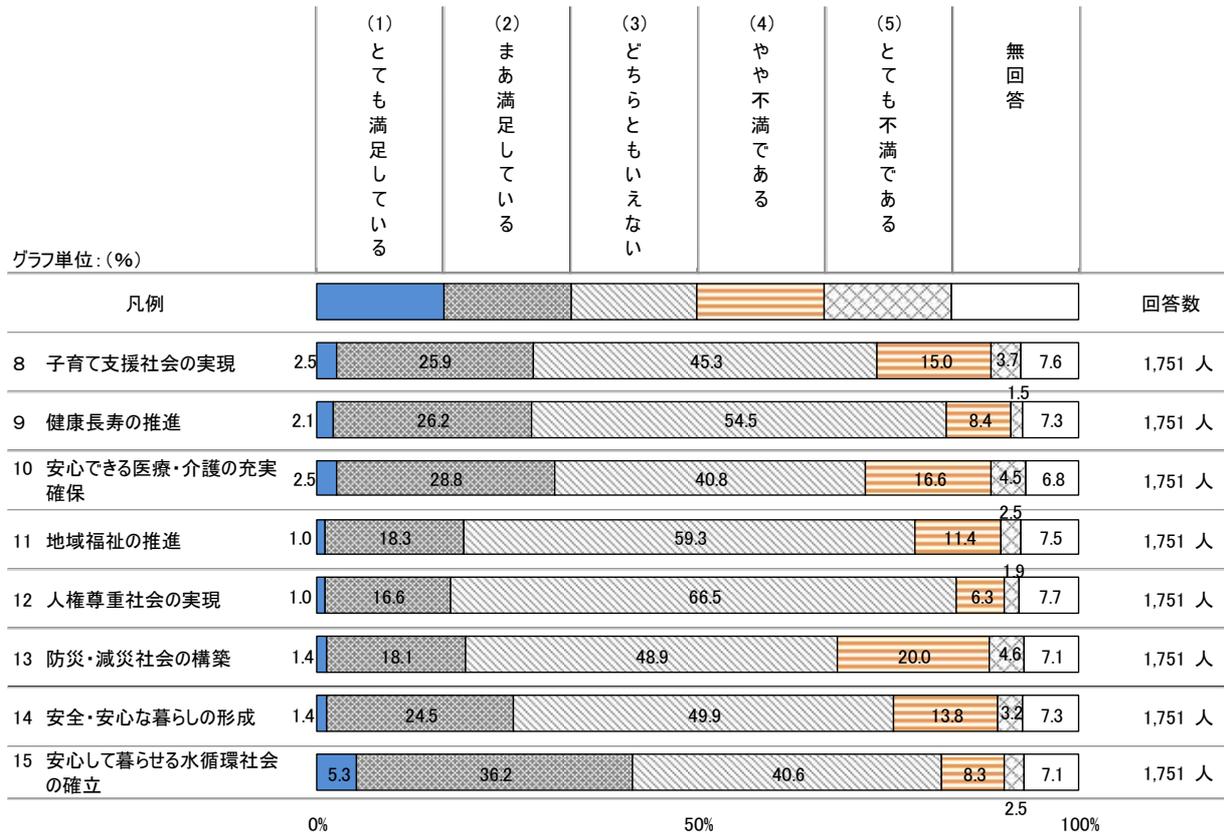
(単位：%)

分 野	満足度					無回答
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	
8 子育て支援社会の実現	2.5 (2.6)	25.9 (25.9)	45.3 (44.6)	15.0 (15.0)	3.7 (4.1)	7.6 (7.8)
9 健康長寿の推進	2.1 (2.1)	26.2 (26.6)	54.5 (54.0)	8.4 (8.3)	1.5 (1.6)	7.3 (7.5)
10 安心できる医療・介護の充実確保	2.5 (2.7)	28.8 (29.8)	40.8 (40.0)	16.6 (16.0)	4.5 (4.5)	6.8 (7.0)
11 地域福祉の推進	1.0 (1.1)	18.3 (18.9)	59.3 (58.5)	11.4 (11.3)	2.5 (2.5)	7.5 (7.7)
12 人権尊重社会の実現	1.0 (1.0)	16.6 (16.9)	66.5 (65.6)	6.3 (6.4)	1.9 (2.2)	7.7 (7.9)
13 防災・減災社会の構築	1.4 (1.5)	18.1 (18.2)	48.9 (48.0)	20.0 (20.0)	4.6 (4.9)	7.1 (7.3)
14 安全・安心な暮らしの形成	1.4 (1.4)	24.5 (25.0)	49.9 (49.0)	13.8 (13.7)	3.2 (3.4)	7.3 (7.5)
15 安心して暮らせる水循環社会の確立	5.3 (5.6)	36.2 (36.2)	40.6 (40.0)	8.3 (8.5)	2.5 (2.5)	7.1 (7.3)

「信頼・安心の香川」の満足度について、「防災・減災社会の構築」では、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合が、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合を上回っており、そのほかの分野では、【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

ウェイトバック集計した値においても、同じ結果となっている。

図表 6-(4) 信頼・安心の香川(満足度)



(5) 笑顔で暮らせる香川(重要度)

問40 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「笑顔で暮らせる香川」についておたずねします。
「笑顔で暮らせる香川」の実現に向けて展開している16～24の分野について、あなたの＜重要度＞を、それぞれ(1)～(5)のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】

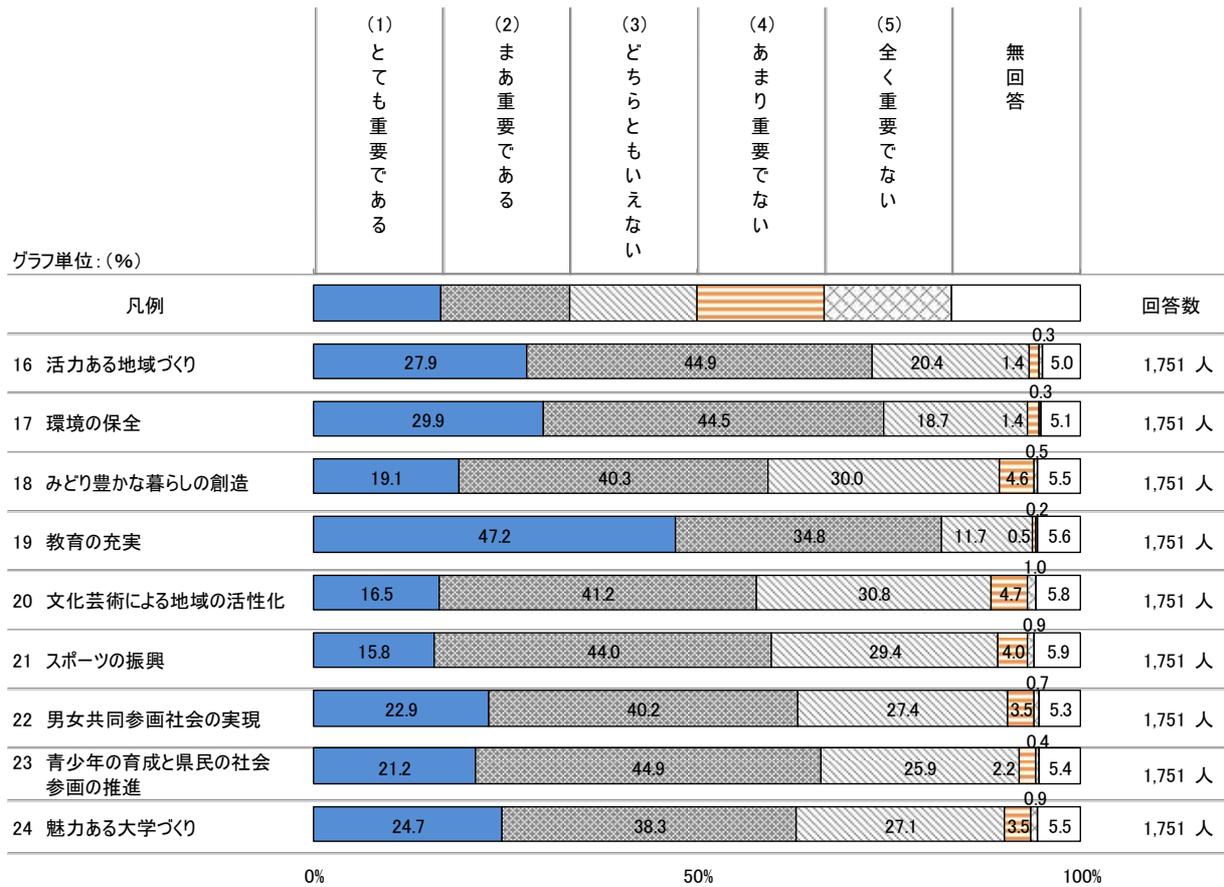
(単位：%)

分 野	重要度					無回答
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	
16 活力ある地域づくり	27.9 (28.2)	44.9 (44.4)	20.4 (20.4)	1.4 (1.5)	0.3 (0.3)	5.0 (5.1)
17 環境の保全	29.9 (30.0)	44.5 (44.4)	18.7 (18.7)	1.4 (1.3)	0.3 (0.3)	5.1 (5.3)
18 みどり豊かな暮らしの創造	19.1 (19.3)	40.3 (40.3)	30.0 (29.5)	4.6 (4.7)	0.5 (0.5)	5.5 (5.6)
19 教育の充実	47.2 (47.7)	34.8 (34.3)	11.7 (11.6)	0.5 (0.5)	0.2 (0.2)	5.6 (5.8)
20 文化芸術による地域の活性化	16.5 (16.9)	41.2 (40.9)	30.8 (30.1)	4.7 (5.0)	1.0 (1.1)	5.8 (5.9)
21 スポーツの振興	15.8 (16.0)	44.0 (43.3)	29.4 (29.2)	4.0 (4.3)	0.9 (1.0)	5.9 (6.2)
22 男女共同参画社会の実現	22.9 (23.5)	40.2 (39.8)	27.4 (27.0)	3.5 (3.6)	0.7 (0.6)	5.3 (5.5)
23 青少年の育成と県民の社会参画の推進	21.2 (21.5)	44.9 (44.3)	25.9 (25.8)	2.2 (2.3)	0.4 (0.4)	5.4 (5.6)
24 魅力ある大学づくり	24.7 (25.7)	38.3 (37.6)	27.1 (26.8)	3.5 (3.4)	0.9 (0.9)	5.5 (5.6)

「笑顔で暮らせる香川」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「教育の充実」82.0%が最も高く、次いで「環境の保全」74.4%、「活力ある地域づくり」72.8%などとなっている。

ウェイトバック集計した値を見ると、【重要である】の割合は、「教育の充実」82.0%が最も高く、次いで「環境の保全」74.4%、「活力ある地域づくり」72.6%などとなっている。

図表 6-(5) 笑顔で暮らせる香川(重要度)



(6) 笑顔で暮らせる香川(満足度)

問40 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「笑顔で暮らせる香川」についておたずねします。
 「笑顔で暮らせる香川」の実現に向けて展開している16～24の分野について、あなたの＜満足度＞を、それぞれ(1)～(5)のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,751】

(単位：%)

分 野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
16 活力ある地域づくり	1.0 (1.1)	19.2 (19.6)	55.8 (55.0)	13.1 (13.1)	2.7 (2.7)	8.2 (8.4)
17 環境の保全	1.1 (1.2)	21.9 (22.6)	57.2 (56.4)	10.0 (9.8)	1.5 (1.5)	8.2 (8.5)
18 みどり豊かな暮らしの創造	1.9 (2.3)	24.2 (24.4)	57.1 (56.5)	6.4 (6.2)	1.5 (1.7)	8.9 (9.0)
19 教育の充実	1.6 (1.8)	25.1 (25.2)	48.2 (47.2)	13.2 (13.4)	2.7 (3.0)	9.1 (9.4)
20 文化芸術による地域の活性化	3.0 (3.1)	24.1 (24.4)	55.3 (54.4)	7.2 (7.1)	1.4 (1.6)	9.0 (9.3)
21 スポーツの振興	1.0 (1.0)	20.0 (20.3)	59.6 (59.1)	8.9 (8.6)	1.5 (1.6)	9.1 (9.4)
22 男女共同参画社会の実現	1.4 (1.6)	17.0 (17.4)	61.0 (60.4)	9.8 (9.4)	2.6 (2.7)	8.2 (8.5)
23 青少年の育成と県民の社会参画の推進	1.0 (1.0)	16.7 (16.7)	64.1 (63.6)	8.2 (8.3)	1.4 (1.5)	8.6 (8.9)
24 魅力ある大学づくり	1.4 (1.4)	15.6 (15.9)	59.5 (58.5)	11.3 (11.2)	3.7 (4.1)	8.6 (8.8)

「笑顔で暮らせる香川」の満足度について、すべての分野で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、特に「文化芸術による地域の活性化」、「教育の充実」や「みどり豊かな暮らしの創造」の満足度が高くなっている。

ウェイトバック集計した値においても、同じ結果となっている。

図表 6-(6) 笑顔で暮らせる香川(満足度)

